

会 告

2018 No.9



上記QRコードより会告のPDF版を閲覧できます。

◇通知・案内事項

○化学工学会第50回秋季大会 参加募集……………本号8ページ

◇本部・支部大会行事の開催予定

	(2018)	(2019)
◇年会		3/13～15(芝浦工業大学)
◇秋季大会	9/18～20(鹿児島大学)	
◇支部大会	12/8(徳島大学)	
◇学生発表会(東地区)		3/2(東京理科大学)
(西地区)		3/2(京都大学)

◇本部・各支部・部会行事 (「ゴシック」は新規掲載分および修正分)

行事プログラムの掲載は1回限りです。既載行事はカレンダー会告ページ(または各支部ホームページ)をご参照下さい。

開催年月日	行 事	申込締切	会 告 ページ
9月 September			
3～4	第26回東北支部若手の会セミナー(福島県)		7号16
3～4	第23回東北ジョイント夏季セミナー(福島県)		7号17
6～7	「プラント計装制御-2」講座(東京都)		4号12
7～8	第36回プラントオペレーションに関する現場監督者セミナー(兵庫県)		8号10
12	第3回製造技術者のための安全講習会(東京都)		7号17
12～13	基礎化学工学講習会(広島県)		8号10
13～14	粉体エンジニア早期養成講座【乾燥】(千葉県)		5号11
14	第5回ものづくり技術セミナー「ものづくりを支える環境処理装置」(東京都)		8号9
17	熟物質流体工学セミナー2018(鹿児島県)	9月10日(月)	7号15
17	第17回反好会(反応工学部会若手会)講演会(鹿児島県)	9月10日(月)	本号16
18	第19回 気液固分散工学サロン(鹿児島県)	9月5日(水)	8号9
18～20	化学工学会第50回秋季大会(鹿児島県)		本号8
21	第4回 ファインバブル学会連合シンポジウム「ファインバブルの漁業、医療、洗浄、ソノケミストリーへの応用」(鹿児島県)	9月7日(金)	7号15
25～26	第12回中四国若手CE合宿(岡山県)		7号19
27	SCE・Net第115回技術懇談会(東京都)	9月20日(木)	本号15
28～29	第44回経営ゼミナール「自らを変え、変革の波を起こせ！～明日の主役としての自覚と飛躍～」伊豆セッション(静岡県)		6号8
29	化学工学技士(基礎)試験(北海道、宮城県、群馬県、東京都、神奈川県、愛知県、京都府、岡山県、広島県、山口県、徳島県、福岡県、宮崎県、鹿児島県の予定)		7号9
10月 October			
1	第2回企業経営幹部による熟議(東京都)		本号15
2	第24回実践化学工学講座(10/2～11/22の全11回)(大阪府)	9月10日(月)	7号18
3	開発型企業の会 2018年度第3回技術交流会(東京都)	9月26日(水)	本号15
4～5	「プロセス設計」講座 化工物性、蒸留計算 編(東京都)		7号10
5	公開講演会「炭素系先端材料の新展開」(大阪府)		本号18
11～12	粉体エンジニア早期養成講座【粉碎】(埼玉県)		5号11
11～12	「化学プロセスの安全性評価手法入門」講座(東京都)		7号11
13～14	第5回九州地区大学・高専若手研究者研究・教育セミナー(佐賀県)	9月7日(金)	8号11

15～16	入門触媒科学セミナー(大阪府)		7号18
20	上席化学工学技士 面接試験【三次】(東京都)		5号9
22	セミナー「～国際競争を生き抜くために～機能性繊維の基礎と最新動向」(大阪府)		8号10
22～23	「レイアウトとプロットプランの考え方」講座(東京都)		7号11
22～23	第23回基礎化学工学講習会(東京都)		本号17
25～26	「プロセス設計」講座 塔・槽, 熱交換器の設計 編(東京都)		7号11
29～30	第23回基礎化学工学講習会(東京都)		本号17
11月 November			
2	第61回プロセス設計技術講演会・見学会, 第47回秋田化学工学懇話会ケミカルエンジニアリング交流会(秋田県)	10月23日(火)	本号17
2～3	第44回経営ゼミナール「自らを変え, 変革の波を起こせ! ～明日の主役としての自覚と飛躍～」 東海セッション(愛知県)		6号8
3～4	第49回中部化学関係学協会支部連合秋季大会(愛知県)		7号18
5～6	第23回基礎化学工学講習会(東京都)		本号17
8～9	「バッチ操作を伴うプロセス設計」(東京都)		7号12
14～15	粉体エンジニア早期養成講座【粒子加工】(大阪府)		5号11
14～16	「プラント計装制御-1」講座(東京都)		本号13
15～16	ナノ材料の表面分析講習(大阪府)	10月29日(月)	7号19
16	反応分離シンポジウム2018(茨城県)	11月8日(木)	本号16
16	第5回初歩からの化学工学数学演習講座(愛知県)	11月9日(金)	本号18
16～18	熱工学セミナー「亜熱帯地域産業における熱工学」(沖縄県)	10月16日(火)	本号16
19～20	「プロセス設計」講座 ハイドロリックの設計 編(千葉県)		7号12
28～30	「P & IDの作り方」講座(東京都)		7号13
29～30	第52回化学工学の進歩講習会 「物質循環とマテリアル開発(マテリアル開発におけるシステムの思考の有用性)」(愛知県)	11月15日(木)	本号18
12月 December			
4～5	粉体エンジニア早期養成講座【集じん】(静岡県)		5号11
5～7	第24回流動化・粒子プロセッシングシンポジウム(FB24) 第13回反応装置・プロセスシンポジウム(東京都)	講演申込 9月7日(金) 事前参加 11月9日(金)	7号15
7～8	第44回経営ゼミナール「自らを変え, 変革の波を起こせ! ～明日の主役としての自覚と飛躍～」 東京セッション(東京都)		6号8
8	中国四国支部・関西支部合同徳島大会(徳島県)	10月26日(金)	本号19
13	開発型企業の会 2018年度第4回拡大技術交流会(東京都)	12月6日(木)	
13～14	粉体エンジニア早期養成講座【混合・混練】(大阪府)		5号11
2019年1月 January			
24～25	「プロセス設計」講座 プロセス基本制御とPFD作成 編(東京都)		本号13
28～30	「反応器の設計」講座(東京都)		本号14
31～2/1	粉体エンジニア早期養成講座【ろ過】(大阪府)		5号11
2019年2月 February			
7～8	「モデリング技術の基礎と実践」講座(東京都)		本号14

◇国際交流行事

会 期	行 事 名	申込締切	会告ページ
9月4～7日	8th International Symposium on Molecular Thermodynamics and Molecular Simulation (第8回分子熱力学・分子シミュレーション国際シンポジウム (MTMS '18)) (千葉県)		6号11
11月4～7日	The 6th Asian Conference on Innovative Energy and Environmental Chemical Engineering (ASCON-IEEChE2018) (台湾・日月潭)		
11月5～9日	23th International Conference on Chemical Reactor (Ghent, Belgium)		
11月21～22日	25th Regional Symposium in Chemical Engineering (Makati, Philippines)		
11月30日～12月1日	第31回化学工学に関する国際シンポジウム (ISChE2018) (タイ・チェンマイ市)	8月15日(水)	6号10

◇共 催・協 賛 行 事(本カレンダーのみのご案内です。詳細は各問合せ先へ直接ご照会下さい。「ゴシック」は新規掲載分)

行 事(場 所)	開催期日	問合せ先	電話番号(FAX) E-mail, URL
第27回日本バイオイメーシング学会学術集会(茨城県)	9月2～4日(日～火)	日本バイオイメー ジング学会	029-861-5555 (029-861-6407) bioimage2018@aist.go.jp http://j-bioimaging.org/bioimaging2018/
第34回ファジィシステムシンポジウム(FSS2018) Human+Fuzzy=Humane(愛知県)	9月3～5日(月～水)	日本知能情報ファ ジィ学会	fss2018staff@cmplx.cse.nagoya-u.ac.jp http://fss2018.j-soft.org/
日本流体力学会年会2018(大阪府)	9月3～6日(月～木)	日本流体力学会	03-3714-0427 (03-3714-0434) nenkai2018-ml@me.es.osaka-u.ac.jp http://www2.nagare.or.jp/nenkai2018/
日本流体力学会創立50周年記念シンポジウム(大阪府)	9月4日(火)	日本流体力学会	03-3714-0427 (03-3714-0434) yano@mech.eng.osaka-u.ac.jp http://www2.nagare.or.jp/nenkai2018/
第20回日本感性工学会大会(東京都)	9月4～6日(火～木)	日本感性工学会	jske20@jske.org http://www.jske.org/taikai/jske20
2018年度日本冷凍空調学会年次大会(福島県)	9月5～7日(水～金)	日本冷凍空調学会	03-5623-3223 (03-5623-3229) jsrae18@jsrae.or.jp https://nenji.jsrae.or.jp/nenji2018/index.html
第56回炭素材料夏季セミナー(愛知県)	9月10～11日 (月～火)	炭素材料学会	03-5389-6359 (03-5227-8632) tanso-summer@bunken.co.jp http://tanso.org/contents/event/seminar/summer-seminar56.html
資源・素材2018(福岡)(福岡県)	9月10～12日 (月～水)	資源・素材学会	03-3402-0541 (03-3403-1776) info@mmij.or.jp https://confit.atlas.jp/guide/event/mmij2018b/top?lang=ja
第42回静電気学会学術講演会(東京都)	9月13～14日 (木～金)	静電気学会	03-3815-4171 iesj@iesj.org http://www.iesj.org/
PMシンポジウム2018(東京都)	9月13～14日 (木～金)	日本プロジェクト マネジメント協会	03-6234-0551 (03-6234-0553) nakayama@pmaj.or.jp http://www.pmaj.or.jp/sympo/2018/index.html
No.18-102 講習会「国際規格に基づく機械安全設計のポ イントー機械、電気及び機能安全」(東京都)	9月14日(金)	日本機械学会	03-5360-3505 (03-5360-3509) sato@jsme.or.jp https://www2.jsme.or.jp/fw/index.php?action=kousyu_index&gyojino=18-102

第46回可視化情報シンポジウム(東京都)	9月14～16日 (金～日)	可視化情報学会	03-5876-1326 sympo2018@vsj.or.jp http://www.visualization.jp/symp2018/
平成30年度化学系学協会東北大会(秋田県)	9月15～16日 (土～日)	日本化学会東北支部事務局	022-224-3883 (022-224-3883) nikka.tohoku@chemistry.or.jp http://tohoku.chemistry.or.jp/
第40回安全工学セミナー 物質危険性講座(東京都)	9月18～19日 (火～水)	安全工学会	03-6206-2840 (03-6206-2848) jsse-2004@nifty.com http://www.jsse.or.jp/
第69回コロイドおよび界面化学討論会(茨城県)	9月18～20日 (火～木)	日本化学会コロイドおよび界面化学部会	03-3292-6163 (03-3292-6318) dsc@chemistry.or.jp https://colloid.csj.jp/div_meeting/69th/
スケジューリング・シンポジウム2018(北海道)	9月20～21日 (木～金)	スケジューリング学会	03-5245-7368 (03-5245-7368) office@scheduling.jp http://www.scheduling.jp/symposium/2018/
未来社会を支える温暖化対策技術シンポジウム in 関西(大阪府)	9月26日(水)	地球環境産業技術研究機構	0774-75-2301 (0774-75-2314) pub_rite@rite.or.jp http://www.rite.or.jp/
地盤技術フォーラム2018「土壌・地下水浄化技術展」 「地盤改良技術展」「基礎工技術展」(東京都)	9月26～28日 (水～金)	フジサンケイビジネスイ	03-3273-6180 (03-3241-4999) r.nakamura@sankei.co.jp http://www.sgrte.jp
第77回技術セミナー(東京都)	9月27日(木)	腐食防食学会	03-3815-1161 (03-3815-1291) naito-113-0033@jcorr.or.jp http://www.jcorr.or.jp/
No.18-105 講習会『『伝熱工学資料(改訂第5版)』の内容を 教材にした熱設計の基礎と応用』(東京都)	9月27～28日 (木～金)	日本機械学会	03-5360-3502 (03-5360-3508) ogura@jsme.or.jp https://www2.jsme.or.jp/fw/index.php?action=kousyu_index&gyojino=18-105
エネルギー・環境シンポジウムシリーズ 水環境の評価、 修復およびそれを支える計測技術(東京都)	10月3日(水)	産業技術総合研究所	emri-2018touroku-ml@aist.go.jp https://unit.aist.go.jp/emri/
第11回トライボロジー入門西日本講座(兵庫県)	10月4～5日 (木～金)	日本トライボロジー学会	03-3434-1926 (03-3434-3556) http://www.tribology.jp/
第13回エコバランス国際会議(東京都)	10月9～12日 (火～金)	日本LCA学会	045-228-7696 (045-228-7697) ecobalance2018@ilcaj.org http://www.ecobalance2018.org/
「高分子材料・炭素繊維複合材料の耐久性評価」に関する 講習会(大阪府)	10月10日(水)	日本材料学会	075-761-5321 (075-761-5325) jimu@jsms.jp http://www.jsms.jp
プラスチック成形加工学会 「第23回成形加工テキストセミナー」(東京都)	10月11日(木)	プラスチック成形加工学会	03-5436-3822 (03-3779-9698) http://www.jspp.or.jp/kikaku/kikaku_top.html
第40回安全工学セミナー 危険現象講座(東京都)	10月16～17日 (火～水)	安全工学会	03-6206-2840 (03-6206-2848) jsse-2004@nifty.com http://www.jsse.or.jp/
第4回材料WEEK(京都府)	10月16～19日 (火～金)	日本材料学会	075-761-5321 (075-761-5325) jimu@jsms.jp http://www.jsms.jp/

第235回西山記念技術講座(愛知県)	10月17日(水)	日本鉄鋼協会	03-3669-5933 (03-3669-5934) educact@isij.or.jp https://www.isij.or.jp/mu7viqm77
第66回レオロジー討論会(福岡県)	10月17～19日 (水～金)	日本レオロジー学 会・日本バイオレ オロジー学会	075-315-8687 office@srj.or.jp http://www.srj.or.jp/gyoji
環境資源工学会シンポジウム「リサイクル設計と分離精製 技術」第36回:レアメタル等湿式分離精製技術の最前線 (東京都)	10月19日(金)	環境資源工学会	03-6459-2203 (03-3403-1776) rpsj@nacos.com http://www.nacos.com/rpsj/
日本高圧力技術協会 技術セミナー 圧力設備の供用適性(FFS)評価法(東京都)	10月23～24日 (火～水)	日本高圧力技術協 会	03-3516-2270 (03-3516-2271) tanaka@hpij.org http://www.hpij.org/event/murt9w9cg-178/#
ICMST-Tohoku 2018(宮城県)	10月23～26日 (火～金)	日本保全学会	http://www.jsm.or.jp/jsm/ICMST2018/ ICMST2018_Home.html
第236回西山記念技術講座(東京都)	10月24日(水)	日本鉄鋼協会	03-3669-5933 (03-3669-5934) educact@isij.or.jp https://www.isij.or.jp/mu7viqm77
「化学の日/化学週間」記念ケミカルフォーラム2018 (東京都)	10月24日(水)	化学工業日報社	03-3663-7936 (03-3663-7861) t_nobiraki@chemicaldaily.co.jp
63rd FRP CON-EX(コネックス)2018(東京都)	10月25～26日 (木～金)	強化プラスチック 協会	03-5812-3370 (03-5812-3375) http://jrps.or.jp/
シンポジウム「量子ビームで拓く荷電膜の未来 ーガンマ線・電子線からイオンビームへの展開ー」 (群馬県)	10月29日(月)	日本海水学会 電気 透析および膜技術 研究会	0836-85-9205 kakahana@yamaguchi-u.ac.jp
第55回石炭科学会議ー石炭の基礎的研究や利用に関する 研究に対して発表の場を提供ー(福岡県)	10月29～30日 (月～火)	日本エネルギー学 会	03-3834-6456 (03-3834-6458) sekitan55happyo@jie.or.jp http://www.jie.or.jp/2018/sekika/sanka. html
第9回イオン液体討論会(鳥取県)	10月29～30日 (月～火)	イオン液体研究会	9thmeeting@ilra.jp http://www.ilra.jp/
第65回材料と環境討論会(富山県)	10月29～31日 (月～水)	腐食防食学会	03-3815-1161 (03-3815-1291) ysm.hng-113-0033@jcorr.or.jp https://www.jcorr.or.jp/
第35回ニューメンブレンテクノロジーシンポジウム2018 (東京都)	10月29日～ 11月1日(月～木)	日本能率協会 日本 膜協会	03-3434-1410 (03-3434-3593) tech-con@jma.or.jp http://school.jma.or.jp/g/
第9回マイクロ・ナノ工学シンポジウム(北海道)	10月30日～ 11月1日(火～木)	日本機械学会	kumagai@jsme.or.jp http://www.hybrid.iis.u-tokyo.ac.jp/ mnm2018/
AIChE – SCEJ Joint Session “Celebrating Prof. Mori's Career Long Accomplishments” (米国 ミネソタ州 ミネアポリス)	10月30日～11月2 日のいずれか1日	AIChE	https://www.aiche.org/conferences/ aiche-annual-meeting/2017
第14回微粒化セミナー(東京都)	11月1日(木)	日本エネルギー学 会	03-3834-6456 (03-3834-6458) jie-events1921@jie.or.jp http://www.jie.or.jp/publics/index/636
日本セラミックス協会 資源・環境関連材料部会講演・討論会(東京都)	11月2日(金)	日本セラミックス 協会	092-925-7721 (092-925-7724) sakamoto@fitc.pref.fukuoka.jp http://www.ceramic.or.jp/bgenryo/
第30回環境システム計測制御学会(EICA)研究発表会 (大阪府)	11月6～7日 (火～水)	環境システム計測 制御学会	090-9219-4106 (077-537-4997) info@eica.jp http://eica.jp

第32回日本吸着学会研究発表会(大阪府)	11月8～9日 (木～金)	日本吸着学会	06-6850-5778 (06-6850-6720) adsorption32@gmail.com http://www.j-ad.org/
膜シンポジウム 2018 “人が交(混)じる, 膜は分ける” (兵庫県)	11月13～14日 (火～水)	日本膜学会	03-3815-2818 (03-3815-2818) membrane@mua.biglobe.ne.jp http://www.maku-jp.org/
第40回ドライプロセス国際シンポジウム(愛知県)	11月13～15日 (火～木)	DPS 2018組織委員会	070-5268-6664 (020-4622-1920) dps2018@officepolaris.co.jp http://www.dry-process.org/2018/
第39回日本熱物性シンポジウム(愛知県)	11月13～15日 (火～木)	日本熱物性学会	052-789-4470 (052-789-4470) info2018@jstp-symp.org http://jstp-symp.org/symp2018/index.html
第56回燃焼シンポジウム(大阪府)	11月14～16日 (水～金)	日本燃焼学会	072-254-9222 (075-441-0436) sympo56@combustionsociety.jp http://www.combustionsociety.jp/sympo56/
第40回安全工学セミナー プラント安全講座(東京都)	11月15～16日 (木～金)	安全工学会	03-6206-2840 (03-6206-2848) jsse-2004@nifty.com http://www.jsse.or.jp/
No.18-75 産業・化学機械と安全部門 研究発表講演会 2018 秋(東京都)	11月16日(金)	日本機械学会	03-5360-3505 (03-5360-3509) sato@jsme.or.jp https://www.jsme.or.jp/icm/
第61回自動制御連合講演会(愛知県)	11月17～18日 (土～日)	システム制御情報学会	052-789-2745 shunichi.azuma@mae.nagoya-u.ac.jp https://rengo61.iscie.or.jp
第70回白石記念講座 「AI(人工知能), ビッグデータが拓く鉄鋼の未来を考える」 (東京都)	11月26日(月)	日本鉄鋼協会	03-3669-5933 (03-3669-5934) educact@isij.or.jp https://www.isij.or.jp/muriv6uyn
第37回溶媒抽出討論会(京都府)	11月26～27日 (月～火)	日本溶媒抽出学会	0774-65-6655 (0774-65-6655) mmatsumo@mail.doshisha.ac.jp
第59回高圧討論会(岡山県)	11月26～28日 (月～水)	日本高圧力学会	070-5545-3188 (020-4665-8596) touronkai59@highpressure.jp http://www.highpressure.jp/new/59forum/
第38回水素エネルギー協会大会(東京都)	11月28～29日 (水～木)	水素エネルギー協会	(03-3293-7572) 38hess@hess.jp http://www.hess.jp/
国際粉体工業展東京2018(東京都)	11月28～30日 (水～金)	日本粉体工業技術協会	03-5297-8855 (03-5294-0909) info2018@powtex.com http://www.powtex.com/tokyo/
第32回分子シミュレーション討論会(茨城県)	11月28～30日 (水～金)	分子シミュレーション研究会	sympo@mol-sim.jp http://sympo.mol-sim.jp/mssj32/
第51回安全工学研究発表会(石川県)	11月29～30日 (木～金)	安全工学会	03-6206-2840 (03-6206-2848) jsse-2004@nifty.com http://www.jsse.or.jp/
第8回潜熱工学シンポジウム(愛知県)	12月3～4日 (月～火)	日本潜熱工学研究会	052-789-5597 kubota.mitsuhiro@material.nagoya-u.ac.jp http://www2.kobe-u.ac.jp/~hidema/latentheat/8thLatentheatSympo/8thSym-index.html

International Symposium for Materials Scientists ～for Inspiration to Innovation by Interaction～(大阪府)	12月3～4日 (月～火)	大阪大学博士課程 リーディングプロ グラム『インタラ クティブ物質科 学・カデットプロ グラム』	06-6850-6403 (06-6850-6403) kikutsuji-ta@cheng.es.osaka-u.ac.jp http://www.msc.osaka-u.ac.jp/
エコデザイン・プロダクツ&サービスシンポジウム2018 (EcoDePS2018)(東京都)	12月5日(水)	エコデザイン学会 連合	03-5840-8141 (03-5840-8142) secretariat@ecodenet.com
第45回炭素材料学会年会(愛知県)	12月5～7日 (水～金)	炭素材料学会	(03-5227-8632) tanso-desk@bunken.co.jp http://tanso.org/
SCIS&ISIS2018 (Joint 10th International Conference on Soft Computing and Intelligent Systems and 19th International Symposium on Advanced Intelligent Systems)(富山県)	12月5～8日 (水～土)	日本知能情報ファ ジィ学会	0948-24-3355 (0948-24-3356) soft@flsi.cird.or.jp http://scis2018.j-soft.org
第17回評価・診断に関するシンポジウム(茨城県)	12月6～7日 (木～金)	日本機械学会	hiroki.mano@aist.go.jp http://diagnosis.dynamics.mech.eng. osaka-cu.ac.jp/
第32回数値流体力学シンポジウム(東京都)	12月11～13日 (火～木)	日本流体力学会	03-3714-0427 (03-3714-0434) z-cfd32_admin@ml.jaxa.jp http://www.nagare.or.jp/cfd/cfd32/
第38回レオロジー講座－基礎と測定法－(東京都)	12月13～14日 (木～金)	日本レオロジー学 会	075-315-8687 office@srj.or.jp http://www.srj.or.jp/
第31回バイオエンジニアリング講演会(福島県)	12月14～15日 (金～土)	日本機械学会	bioconf18-2@jsme.or.jp https://www.jsme.or.jp/conference/ bioconf18-2/
第2回ゼロライトセミナー(大阪府)	12月17日(月)	日本ゼロライト学 会	06-6850-6255 (06-6850-6257) nisiyama@cheng.es.osaka-u.ac.jp https://jza-online.org/events
第27回微粒化シンポジウム(岡山県)	12月17～18日 (月～火)	日本液体微粒化学 会	06-6466-1588 (06-6463-2522) infomation_atmz@ilass-japan.gr.jp http://www.ilass-japan.gr.jp
第30回高分子ゲル研究討論会(東京都)	2019年1月 16～17日(水～木)	高分子学会高分子 ゲル研究会	03-5540-3771 (03-5540-3737) http://main.spsj.or.jp/c12/gyoji/gels.php
第14回バイオマス科学会議(広島県)	2019年1月 16～17日(水～木)	日本エネルギー学 会 バイオマス部会	03-3834-6456 (03-3834-6458) bio14happyo@jie.or.jp http://www.jie.or.jp/publics/index/629/
第40回安全工学セミナー 安全マネジメント講座(東京都)	2019年1月17～ 18日(木～金)	安全工学会	03-6206-2840 (03-6206-2848) jsse-2004@nifty.com http://www.jsse.or.jp/
第24回高専シンポジウム in Oyama(栃木県)	2019年1月26日(土)	国立高等専門学校 機構	0285-20-2141 (0285-20-2882) senkou@oyama-ct.ac.jp
第35回エネルギーシステム・経済・環境コンファレンス (東京都)	2019年1月 29～30日(火～水)	エネルギー・資源 学会	06-6446-0537 (06-6446-0559) webmaster@jsr.gr.jp http://www.jsr.gr.jp/index.html
世界水素技術会議2019(東京都)	2019年6月2～7日 (日～金)	水素エネルギー協 会	029-861-8712 (029-861-8712) org@whtc2019.jp http://whtc2019.jp

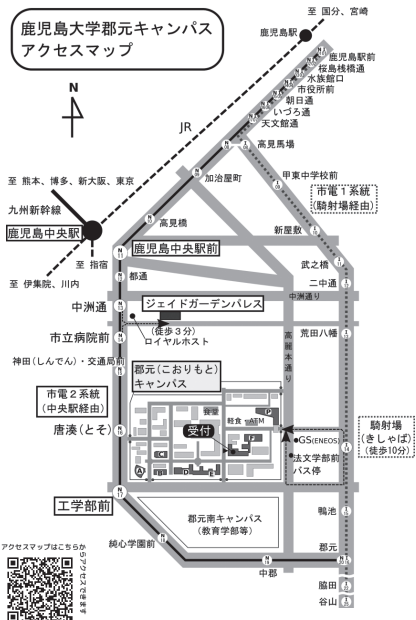
化学工学会第50回秋季大会 概要

会 場：鹿児島大学 郡元キャンパス(〒890-8580 鹿児島市郡元1丁目21番24号)
 会 期：2018年9月18日(火)～20日(木)
 懇 親 会 会 場：ジェイドガーデンパレス(〒890-0055 鹿児島市上荒田町19番1号)
 懇 親 会 日 時：2018年9月19日(水)18:00～20:00
 大会WebサイトURL：http://www3.scej.org/meeting/50f/

化学工学会第50回秋季大会は、2018年9月18日(火)～20日(木)の3日間、鹿児島大学郡元キャンパスにおいて開催されます。
 奮ってご参加いただきますよう、よろしくお願いいたします。

会場へのアクセス

JR 鹿児島中央駅から市電(7～8分)で「工学部前」または「唐湊(とそ)」下車、徒歩すぐ。
 鹿児島空港からバス(直行便・伊敷経由で約40分)で鹿児島中央駅下車、市電に乗り換え。
 詳細については大会webサイトをご覧ください。



注意事項

鹿児島大学構内は交通規制が行われています。そのため、自家用車でのご来場はご遠慮ください。また、構内は原則全面禁煙で、建物外の許可された場所のみ喫煙できます。

懇親会

日時：9月19日(水)18:00～20:00
 場所：ジェイドガーデンパレス(市電で「中洲通」または「市立病院前」下車、徒歩3分)

式典

日時：9月19日(水)16:20～17:00
 会場：AA会場(稲盛会館2Fホール)

会長挨拶、優秀論文賞表彰式を行います。

(以下、オーガナイザー敬称略)

化学工学ビジョンシンポジウム

学会のセッションの細分化は詳細な議論には有効ですが、多数のセッションが同時に走り、専門の近い聴衆が集まるため、全体を大きく変えるような議論を困難にしています。多数の要素を組み合わせた全体システムの設計・提案は、化学工学こそがすべきものであり、第49回秋季大会から本シンポジウムが企画され、今回で三回目になります。今回は「未来の化学工学」へむけて議論します。多数の部会からの参加と議論を歓迎します。

第三回 デジタル変革で実現する未来工場

日時：9月18日(火)10:00～12:00
 会場：AA会場(稲盛会館2Fホール)
 オーガナイザー：山下善之(東京農工大学、化学工学会AI・IoT委員会委員長)
 鷲見泰弘((株)カネカ、化学工学会AI・IoT委員会副委員長)
 大村直人(神戸大学、化学工学会システム・情報・シミュレーション部会 部会長)

AI・IoTの急速な進展に伴い、化学プラントの設計・運転・監視・保守への活用もすでに始まっています。本シンポジウムでは、オペレーションの安定性向上、生産性向上、効率化、安全性の確保を実現するスマート化の先進的な取り組みやビジョンを共有し、未来工場に向けたこれからの取り組みについて議論します。

AA104(10:00～10:30)
 [招待講演] デジタル変革と化学工場の近未来
 (東京農工大学) 山下善之氏
 AA105(10:30～11:00)
 [招待講演] サイバーフィジカルシステムのプラント操業への活用とその展望
 (横河電機(株)) 仲矢 実氏
 AA107(11:00～11:30)
 [招待講演] 三井化学における次世代工場構築に向けての取り組み
 (三井化学(株)) 江崎宣雄氏
 (11:30～12:00)
 総合討論

特別シンポジウム

最新の注目テーマを、各界最前線でご活躍されている方からご説明いただき、議論します。

「社会実装学研究会」 ～社会実装への化学工学の挑戦～

日時：9月18日(火)9:00～15:20(ポスター懇親会)

15:30～17:30)

会場：CA会場(ポスター懇親会：AB会場)
 主催：戦略推進センター 社会実装学研究会
 オーガナイザー：中川究也(京都大学)、松本泰正(花王(株))

化学工業に関わる膨大な研究開発の成果は、要素技術として多かれ少なかれ産業へと実装されてきました。近年、第四の産業革命を目指す動きが世界的に見られる中、より俯瞰的な視点をもって新たなイニシアティブを立ち上げるのは化学工学者であると信じます。急激な社会の変化は、より複雑な要請を科学技術に求めます。製造に関わる課題は多元的かつマルチスケールとなり、製品に求められる価値、機能、品質は個別的かつ曖昧です。技術の善し悪しの判断を単視眼的に下すことの意義は薄れ、それを享受する社会や個人の特性を見て決めることの重要性が増してくるでしょう。本シンポジウムでは、「社会実装学」という、「技術を社会に実装するための新しい学問領域」を化学工学に加えるための議論を行います。

特別シンポジウムと銘打っておりますが、一般講演を広く募集し、技術を社会に実装するためのヒントとなる研究成果、事例、コンセプトの発表の場を設けます。口頭発表の後に懇親会(簡単な飲食付き)を兼ねたポスター発表会も実施いたします。ごくばらんな意見交換の場として、みなさまの積極的なご参加をお待ち申し上げます。

CA101(9:00～9:20)(15:30～17:30)
 社会実装プロセスにおける課題：アンケート調査によってみえてきた障壁と成功への鍵の姿とは
 (東北大学) 福島康裕氏・
 (京都大学) 中川究也氏・(花王(株)) 松本泰正氏
 CA102(9:20～9:40)(15:30～17:30)
 不安定電源の国内大量導入に向けた新規負荷変動吸収システムの概念設計

(物質・材料研究機構/信州大学/広島大学) 古山通久氏・
 (東京大学/物質・材料研究機構) 菊池康紀氏・
 (広島大学) 市川貴之氏・(東京大学) 杉山正和氏
 CA103(9:40～10:00)(15:30～17:30)
 蓄電池を活用した再エネ素製造システムの技術経済分析
 (東京大学/物質・材料研究機構) 菊池康紀氏・
 (広島大学) 市川貴之氏・
 (東京大学) 杉山正和氏・
 (物質・材料研究機構) 古山通久氏

CA104(10:00～10:20)(15:30～17:30)
 リチウム空気電池内の物質移動の観点からみた技術経済的評価

(物質・材料研究機構) 安久絵里子氏・古山通久氏
 CA105(10:20～10:40)(15:30～17:30)
 汚泥灰からリン回収率85%のリン系肥料の直接製造と残渣の無害化プロセスの開発
 (新潟大学) 金 熙濬氏・狩野直樹氏

CA106(10:40～11:00)(15:30～17:30)
複雑流体を扱うプロセスに対する合理的な設計論の構築に向けた基礎的課題と対策

(静岡県立大学)増田勇人氏・
(徳島大学)太田光浩氏・
(神戸大学)大村直人氏

CA107(11:00～11:20)(15:30～17:30)
食品の適温流通に向けた可食性蓄熱材の可能性

(京都大学)小林 敬氏・中川究也氏

CA108(11:20～11:40)(15:30～17:30)
事業実装へ向けたビール工場排水処理副生メタンガスを利用したSOFC発電試験

(アサヒグループホールディングス(株))
川村公人氏・竹田健一郎氏・神田智正氏・
(九州大学)谷口俊輔氏・佐々木一成氏

CA109(11:40～12:00)(15:30～17:30)
多雪都市における雪冷熱利用と除雪負荷低減の可能性

(山形大学)樋口健志氏・朝比奈一磨氏・
高木彩絵氏・菅原佳奈氏・上野敏輝氏

CA113(13:00～13:40)
[展望講演] SATREPSプログラムによるタイ国との国際共同研究

(京都大学)三浦孝一氏

CA115(13:40～14:00)(15:30～17:30)
イオン交換樹脂法によるバイオ燃料製造技術の種子島での導入事例

(東北大学)北川尚美氏・
(NPO法人こすも)松岡拓郎氏・
(東北大学)加藤牧子氏・廣森浩祐氏・
福島康裕氏

CA116(14:00～14:20)(15:30～17:30)
オミクス技術を石油産業に実装しつつある実態

(石油エネルギー技術センター)豊岡義行氏

CA117(14:20～14:40)(15:30～17:30)
太陽光発電と水素蓄エネを用いたコスト競争力のある分散型エネルギーシステムの提案

(東京工業大学)大久保辰哉氏・
(東京工業大学／東京大学)清水輝之氏・
(東京工業大学)長谷川馨氏・
(東京工業大学／東京大学)菊池康紀氏・
(東京工業大学)伊原 学氏

CA118(14:40～15:00)(15:30～17:30)
エネルギーキャリア関連技術の社会実装に向けた地域別導入分析

(東京大学)清水輝之氏・菊池康紀氏

CA119(15:00～15:20)(15:30～17:30)
技術の社会実装を支援する情報基盤

(東京大学)兼松祐一郎氏・大久保達也氏・
菊池康紀氏

CA120(15:30～17:30)
計量書誌分析に基づく技術システムの社会実装に必要な要素の特性化

(東京大学)菊池康紀氏

CA121(15:30～17:30)
ビジョンの実現を志向した演繹のプロセス開発手法：水素を用いるバイオ燃料製造プロセスの簡易的デモンストレーション

(東北大学)大内 翔氏・福島康裕氏・
大野 肇氏

CA122(15:30～17:30)
コヒーレントな技術ロードマップの作成に向けた課題

(東北大学)福島康裕氏

地方発・民間主体による 次世代エネルギー社会への変容のための キードライブ

日時：9月19日(水)9:30～14:40

会場：AA会場

主催：戦略推進センター 次世代エネルギー社会
検討委員会

オーガナイザー：中垣隆雄（早稲田大学）、古山
通久(物質・材料研究機構)

大規模集中型から小規模自律分散型の次世代エネルギーシステムへ移行しようとするメガトレンドの中、地域の課題をビジネスチャンスに変え、これまでの延長線上にはない持続可能な社会へと変容していくことに大きな期待が寄せられています。そのためには、様々な関連主体の中からイニシエータが登場してエコシステムを構築し、破壊的イノベーションにつなげていくことが望まれ、これからの日本の経済競争力の維持・向上にとっても必要となります。本シンポジウムでは新たな価値観の下で、この社会変容の契機となる地方発・民間主体のキードライバについて、識者の講演を通して参加者とともに考える機会を持ちます。化学工学の研究者・技術者に対して、社会経済学的視点から重要な示唆や気付きをいただくことを企図していますので、部会を問わず幅広いご参加を期待しております。

(9:30～9:40)

趣旨説明

(早稲田大学)中垣隆雄氏

AA203(9:40～10:20)

[招待講演] 新国富論，新たな経済指標による地方創生論

(九州大学)馬奈木俊介氏

AA205(10:20～11:00)

[招待講演] 地産地消のエネルギーと経済還流－公共施設等先進的CO₂排出削減対策モデル事業(環境省補助事業)－

(九州大学)原田達朗氏

AA207(11:00～11:40)

[招待講演] 行動科学からみた省エネ・環境配慮行動の促進：ナッジ理論の活用例

(電力中央研究所)西尾健一郎氏

AA214(13:20～14:00)

[招待講演] 南九州のエネルギーの状況とEV普及の可能性について

(鹿児島大学)市川英孝氏

AA216(14:00～14:40)

総合討論

(早稲田大学)中垣隆雄氏・

(物質・材料研究機構)古山通久氏

二酸化炭素回収・利用・貯留(CCUS)の ための化学工学

日時：9月20日(木)10:00～16:20

会場：AA会場

主催：超臨界流体部会

共催：(一社)触媒学会、(一社)水素エネルギー協会、(公社)石油学会、(一社)日本エネルギー学会

オーガナイザー：川波 肇（産業技術総合研究所）、佐藤剛史(宇都宮大学)

CO₂排出削減が多方面で推進されるなか、火力発電等から発生したCO₂の回収・貯留・利用(CCUS)が課題となっています。また最近では、経済産業省と米国エネルギー省との間でCCUSに関する覚書が締結されるなど、CCUSの技術開発が重要になっています。CCUSが関連するプロセス開発において、CO₂回収や固定化、CO₂利用といった個々の技術における基礎や最新情報を把握することは極めて重要です。

本シンポジウムでは、CO₂回収から利用への流れに沿って、基礎から実用化に至るまでのいくつかの実例と研究例を紹介いたします。特に、CO₂利用に関しては、無機物合成、有機化合物合成、燃料への利用などに精通された方々にご

講演を頂きます。本シンポジウムが、今後の低炭素化、脱炭素化、炭素循環に向けた社会構築のため、化学工学に携わる我々がCCUSに如何に向き合い、具体的にどう取り組むべきかを考えるきっかけになることを期待しております。

AA304(10:00～10:40)

[招待講演] 火力発電所における省エネルギー型二酸化炭素分離回収実用化試験について

(関西電力(株))小堺 瑛氏

AA306(10:40～11:20)

[招待講演] 二酸化炭素を用いた製鋼スラグからの機能性粒子の合成と二酸化炭素の固定化

(日本大学)遠山岳史氏

AA308(11:20～12:00)

[招待講演] CO₂からのメタノール合成に特化した触媒の開発

(東京大学)多田昌平氏

AA313(13:00～13:40)

[招待講演] 旭化成における水電解システムの開発動向とCCUSでの取り組み

(旭化成(株))臼井健敏氏

AA315(13:40～14:20)

[招待講演] 人工光合成の研究：太陽光と水とCO₂から有機物を合成する技術のこれまでと今後

((株)豊田中央研究所)森川健志氏

AA317(14:20～15:00)

[招待講演] 水素貯蔵を志向した二酸化炭素からのギ酸合成とギ酸からの水素発生

(産業技術総合研究所)姫田雄一郎氏

AA319(15:00～15:40)

[招待講演] 生体触媒を利用した二酸化炭素の物質変換

(大阪市立大学)天尾 豊氏

AA321(15:40～16:20)

[招待講演] CCUSと化学工学の将来への展望

(産業技術総合研究所)原田 亮氏

炭素循環社会構築に向けての技術展望と 課題－本部産業界交流委員会活動報告

日時：9月18日(火)13:00～15:40

会場：AA会場

主催：戦略推進センター 産業界交流委員会

オーガナイザー：林 潤一郎（九州大学）、前 一
廣(京都大学)

本会の産業界交流委員会は、化学工学会・法入会員企業(32社)の方々にご参集いただき、今後の化学産業、産業人材育成、化学工学のあり方等について議論をしてみました。そのなかで、2017年度には、将来に実現すべき炭素循環社会、そして2050年までの二酸化炭素排出80%削減に向けて必要となる新技術、有望と期待される技術やシステムを提案、提示すべく、参画企業の技術者が五つのワーキンググループを構成し、電池(蓄電)、廃棄物・燃焼、バイオプロセッシング、C1化学およびIoT技術をキーワードとする検討を実施しました。

本シンポジウムでは、上記ワーキンググループの活動報告を行い、併せて本委員会・委員長(前一廣氏)による委員会活動の総括的報告、副委員長(林潤一郎氏)による炭素循環社会に資する炭素資源変換利用技術のあり方と新技術システムに関する提案を行います。総合討論の時間も設け、炭素循環社会実現のための技術に関する知見や考え方を共有したいと考えております。本シンポジウムへの各位のご参加と討論を期待しております。

AA113(13:00～13:20)

[依頼講演] 本部産業交流委員会活動の趣旨および活動報告

(京都大学)前 一廣氏
AA114(13:20～14:00)
[依頼講演] 炭素循環社会における炭素資源利用と化学生産

(九州大学)林 潤一郎氏
AA116(14:00～14:20)
[依頼講演] 燃料電池を活用した基幹化成品・電力コプロダクション

(東洋エンジニアリング(株))吉田延弘氏・
(兵神装備(株))大東眞二氏・
(石原産業(株))石灰洋一氏・
(住友化学(株))伊美勝治氏・上田和正氏
AA117(14:20～14:40)
[依頼講演] バイオプロセッシング技術の展望と課題

(協和発酵バイオ(株))日比一雄氏・
(サッポロホールディングス(株))中村 剛氏・
(コスモエンジニアリング(株))森田敏靖氏・
(木村化工機(株))池田博史氏
AA119(15:00～15:20)

[依頼講演]C1化学技術の展望と課題
(三菱ケミカル(株))久次米正博氏・
((株)IHI)澤 公博氏・
(JNC(株))成田恵昭氏・山口雅嗣氏・
(新日鐵住金(株))山根典之氏・
(旭化成(株))小杉裕士氏・
(宇部興産(株))山本祥史氏・
(日揮(株))本田一規氏
AA120(15:20～15:40)

炭素循環社会構築に資する化学産業技術に関する総合討論
(京都大学)前 一廣氏・(九州大学)林 潤一郎氏

本部企画

女性技術者ネットワーク

日時：9月19日(水)12:00～13:00

会場：EE会場

主催：男女共同参画委員会

オーガナイザー：所 千晴(早稲田大学), 吉宗美紀(産業技術総合研究所), 篠原雅世(千代田化工建設(株))

女性の少ない化学工学というコミュニティにおいて、女性ならではの悩みを共有し、同じような経験をもつ女性研究者、技術者からアドバイスを受け取りながら、自ら解決策を見出す機会を提供することを目的とします。

EE210(12:00～12:30)

[招待講演] プラスチックで目指す顧客価値創造
(住友ベークライト(株))沖 博美氏

EE211(12:30～13:00)

[招待講演] 青い血の化学：巨大生体分子研究への挑戦
(鹿児島大学)加藤早苗氏

若手研究者が考える未来の化学工学研究(ポスターセッション)

日時：9月20日(木)13:00～16:00

会場：P会場

主催：各地区若手組織

オーガナイザー：森貞真太郎(佐賀大学), 武井孝行(鹿児島大学), 川喜田英孝(佐賀大学)

化学工学を取り巻く環境は、様々な観点から大きく変化しつつあります。それは産業・学術的なことのみならず、研究者と学会との関わり方ということをも含むかもしれません。手法の学問である化学工学が貢献できる対象分野は益々

広がると考えて間違い無いと思いますが、化学工学に新しい考え方をフィードバックすることも忘れるべきではありません。様々な分野における先進的な学術アプローチを横断的に俯瞰し、未来の化学工学研究を更なる高みへと発展させる糸口をつかめないでしょうか。本シンポジウムでは全国で活躍する若手化学工学技術者・研究者が参集し、発表者・聴講者間での双方向の意見交換を通じて未来のホットトピックスを探ります。さらに、将来に向けた人脈づくりの場を提供します。

(13:00～13:05)

オーガナイザー挨拶

PB301(13:05～13:55)

[依頼講演] 遺伝子発現量最適化技術を駆使した酵母による高効率有用物質生産
(大阪府立大学)山田亮祐氏

PB302(13:05～13:55)

[依頼講演] 高温・高圧水マイクロリアクションを利用したバイオマス資源の有用物質への変換
(北海道立総合研究機構工業試験場) 吉田誠一郎氏・松嶋景一郎氏

PB303(13:05～13:55)

[依頼講演] 超音波照射時音響影響に対する移動現象論に基づく数値モデル化
(東北大学)山本卓也氏・Komarov Sergey氏

PB304(13:05～13:55)

[依頼講演] 時間経過とともに構造が変化するゲル層や高分子凝集による粒子分離
(佐賀大学)川喜田英孝氏

PB305(13:05～13:55)

[依頼講演] 移動物性を基盤としたデバイス・システム設計
(東京農工大学)大橋秀伯氏

PB306(14:05～14:55)

[依頼講演] 液化ジメチルエーテルを用いるブタ大動脈からのスキャフォールド作成
(名古屋大学)神田英輝氏

PB307(14:05～14:55)

[依頼講演] 擬似移動層型クロマト反応器を用いた化学反応の高効率化に関する研究
(沖縄工業高等専門学校)福村卓也氏・
(一関工業高等専門学校)長澤 遼氏・
佐藤和久氏

PB308(14:05～14:55)

[依頼講演] 多重定常状態を利用した反応蒸留プロセスの強化
(産業技術総合研究所)山木雄大氏

PB309(14:05～14:55)

[依頼講演] メタクリル酸メチル(MMA)製造用原料の多様化とイソブタンの酸化脱水素反応の産学連携
(三菱ケミカル(株))加藤裕樹氏・
(徳島大学)新田真也氏・折部健太氏・
(三菱ケミカル(株))二宮 航氏・
(徳島大学)加藤雅裕氏・杉山 茂氏

PB310(15:05～15:55)

[依頼講演] 水溶性高分子との相互作用による結晶転移抑制
(大原薬品工業(株))東郷太一郎氏

PB311(15:05～15:55)

[依頼講演] 昇温型水熱ケミカルヒートポンプの反応器設計
(福岡大学)江崎丈裕氏

PB312(15:05～15:55)

[依頼講演] 耐ファウリング性能の発現因子を計算化学手法によって検証する：非イオン性マテリアルを例に
(名古屋工業大学)南雲 亮氏

PB313(15:05～15:55)

[依頼講演] 水素発生のための高効率アンモニア電気分解

(早稲田大学)花田信子氏
PB314(15:05～15:55)

[依頼講演] ハイスループットデバイスをを用いたクロマトグラフィー分離プロセスの設計

(山口大学)吉本則子氏・山本修一氏・
星野奈々子氏・田中拓朗氏

(15:55～16:00)

閉会挨拶

部会横断型シンポジウム

ST-21 再生可能エネルギー社会実装のための水素製造・精製技術

日時：9月19日(水)13:00～16:00, 9月20日(木)9:00～15:00

会場：EB会場

主催：反応工学会部会, 分離プロセス部会, エネルギー部会, 材料・界面部会

2015年のCOP21で合意されたパリ協定では、日本は2030年までに2013年比で26%の温室効果ガスの削減が求められています。この削減目標の達成には、再生可能エネルギー資源を水素などの化学エネルギーの形態に変換し、安定かつ大量に導入する必要があります。本シンポジウムでは、再生可能エネルギー資源の利用拡大に向けた水素製造および精製に関する材料開発、分離技術、反応プロセスに関する研究発表を広く募集します。

ST-22 プラズマプロセッシングの新展開

日時：9月19日(水)9:00～16:00

会場：FB会場

主催：粒子・流体プロセス部会, 熱工学会部会, 反応工学会部会

プラズマプロセッシングは新規材料合成や環境問題解決のための先端基盤技術として注目されており、プラズマによるナノ粒子合成、機能性薄膜の作製、表面処理に加え、有害物質処理などの幅広い分野に応用されています。本シンポジウムでは、プラズマプロセッシングの基礎と応用に関する討論をもとに、化学工学における新たな展開を探ります。なお、若手研究者による優秀な発表に対して、プラズマプロセッシング奨励賞を贈呈します。

ST-23 都市鉱山リサイクルに向けてのアプローチ

日時：9月18日(火)9:00～17:20

会場：CD会場

主催：分離プロセス部会, 材料・界面部会, 環境部会

2020年に開催される東京オリンピック・パラリンピックでは、携帯電話をはじめとした小型家電等廃棄物等のいわゆる「都市鉱山」から原材料となる金・銀・銅を回収して入賞メダルを製作することが計画されており、都市鉱山の開発・リサイクルは我が国にとって注目されるトピックスです。招待講演に加えて、分離、環境、材料をはじめとする幅広い分野の研究者からの都市鉱山リサイクルに関連した研究開発の講演を広く募集します。

ST-24 二酸化炭素資源化(CCU) ; CO₂ 再利用の為にプロセス開発と基礎物性

日時：9月18日(火)9:00～17:20
会場：CE会場
主催：分離プロセス部会，基礎物性部会，環境部会

地球温暖化問題の対応として提案されている二酸化炭素回収及び埋設(CCS)を超えて，二酸化炭素を資源として再活用する技術(CCU)が必要とされています。

そのための要素技術として分離技術と物性をとらえ，今後のプロセス開発及び実用化に結びつけるための方法を考える出発点となる議論を提供することを目的として，基礎物性部会，分離プロセス部会，及び環境部会の3部会共同で，部会横断シンポジウムを開催致します。

ST-25 CVD・ドライプロセス ーデバイス構造・機能制御の反応工学ー

日時：9月19日(水)13:00～15:00, 9月20日(木)9:00～15:00
会場：CD会場
主催：反応工学部会，超臨界流体部会，材料・界面部会
共催：Cat-CVD研究会，CVD研究会

CVD等のドライプロセスはエレクトロニクス，太陽電池，MEMS，機能性コーティング等の分野において重要な基幹技術となっています。本シンポジウムでは，CVDとその他のドライプロセスを利用した薄膜形成，微粒子合成，微細加工において反応工学的見地より反応メカニズムを理解し，論理的で効率的な反応プロセスや反応装置の開発を目指し議論することを目的とします。なお，優秀な発表をされた若手研究者には，CVD反応分科会奨励賞を贈呈します。

ST-26 電池・エネルギー変換・貯蔵技術の新展開 ーナノからマクロ，材料からシステムまでー(口頭発表部門)

日時：9月18日(火)10:00～14:40, 9月19日(水)9:00～14:00, 9月20日(木)9:00～14:20
会場：EG会場
主催：エネルギー部会，反応工学部会，材料・界面部会

高効率なエネルギー利用や再生可能エネルギーの利用を推進する技術の開発が求められています。本シンポジウムでは，二次電池，太陽電池，燃料電池等の次世代エネルギー変換デバイスに関連する技術やエネルギーキャリアなどを含むエネルギーの変換・貯蔵に関する技術を対象として，材料・デバイス・プロセス・システムの階層を問わず講演を広く募集します。また，各階層において化学工学の貢献が期待される点などに関して幅広く議論するため，総合討論を実施します。なお，別途開催するポスター発表部門では，学生のポスター賞選考を行います。

ST-27 電池・エネルギー変換・貯蔵技術の新展開 ーナノからマクロ，材料からシステムまでー (ポスター発表部門)

日時：9月18日(火)14:40～17:40
会場：P会場
主催：エネルギー部会，反応工学部会，材料・

界面部会

高効率なエネルギー利用や再生可能エネルギーの利用を推進する技術の開発が求められています。本シンポジウムでは，二次電池，太陽電池，燃料電池等の次世代エネルギー変換デバイスに関連する技術やエネルギーキャリアなどを含むエネルギーの変換・貯蔵に関する技術を対象として，材料・デバイス・プロセス・システムの階層を問わず講演を広く募集します。また，各階層において化学工学の貢献が期待される点などに関して幅広く議論するため，総合討論を実施します。なお，本ポスター発表部門では，学生のポスター賞選考を行います。

ST-28 熱エネルギーに関する基盤・応用技術の最新動向

日時：9月18日(火)9:00～17:00, 9月19日(水)9:00～14:40
会場：DB会場
主催：熱工学部会，エネルギー部会

高効率な熱エネルギー利用や省エネルギー技術など熱エネルギーに関する研究発表を分野横断的に広く募集します。我が国では一次エネルギーの6割が排熱として廃棄されている現状を踏まえ，持続可能な社会の実現に向けた熱エネルギーの有効利用のための基盤・応用技術を分野横断的に俯瞰し議論することを目的とします。若手研究者による優秀な研究発表には表彰を行います。

ST-29 化学工学からファインパブルテクノロジーへのアプローチ

日時：9月20日(木)8:55～16:00
会場：FB会場
主催：反応工学部会，粒子・流体プロセス部会

日本発のファインパブル技術の発展は目覚ましく，化学工学を基盤とする分野への普及や応用が進んでいます。本シンポジウムでは，ファインパブルの基礎物性の測定やファインパブルによる効果のメカニズムの解析などの基礎研究から，ファインパブルを活用した応用研究まで講演を広く募集します。

ST-30 化学プロセス強化に貢献する膜反応器技術

日時：9月19日(水)9:00～12:00
会場：EB会場
主催：反応工学部会，分離プロセス部会

反応と分離それぞれの要素技術が高度化しプロセスの効率化が進んだ現在において，次世代化学プロセスへの革新的な発展には，反応と分離を統合し，さらなる省エネルギー化およびコンパクト化を目指したプロセス強化が必要になっています。

本シンポジウムは招待講演のみで構成し，最前線にある膜型反応器の研究開発事例について発表頂きます。分野横断的な議論を通じ，膜型反応器の設計指針の確立や新規な膜型反応器の開発，またその応用展開の可能性に向けた討論を行うことを目的とします。

ST-31 化学工学における拡散現象の解析とプロセス強化への展開

日時：9月18日(火)9:00～17:00

会場：ED会場
主催：システム・情報・シミュレーション部会，粒子・流体プロセス部会

化学プロセスの強化において，物質・熱の拡散の制御は重要な因子の一つであり，拡散現象を伴う様々なダイナミックプロセスの解析から設計への方法論の展開が期待されています。本シンポジウムでは，反応，移動現象，プロセスシステムなどと様々な観点に基づく研究発表を幅広く募集し，拡散現象を伴う化学プロセスの複雑性，その解析手法，そしてプロセス合成／設計への展開におけるシステムズアプローチなどについて議論を行います。

ST-32 微生物のバイオフィルム形成と付着固定化のバイオプロセスへの応用

日時：9月20日(木)9:00～12:00
会場：FC会場
主催：バイオ部会，環境部会
共催：環境バイオテクノロジー学会

微生物は自ら分泌するタンパク質・多糖・DNAなどでバイオフィルムを形成し，基質に付着して環境中で生息しています。バイオフィルムは外部の環境変化に柔軟に対応し，周囲の物質の取り込みと利用に関与してサバイバルに役立っています。それをバイオプロセスに応用する試みは古くから行われています。このシンポジウムでは，バイオフィルム形成と付着固定化した微生物のバイオプロセスへの応用に関して最新の研究を紹介します。

ST-33 バイオマスの有効利用に向けた熱化学・生物化学変換の化学工学

日時：9月20日(木)9:00～15:40
会場：FD会場
主催：エネルギー部会，バイオ部会

国際的にはパリ協定，SDG，国内的にはFITの枠組み変更に伴い，バイオマスの有効利用へのニーズはさらに高まっています。そのために熱化学，生物化学の変換のより一層の技術革新が求められます。基礎的な現象から，プロセスの設計に至るまで，化学工学的なアプローチは，実用化につながるバイオマス利用技術を創出する上で最も効率的な道筋を提供します。化学工学に基づいた議論を通してバイオマス利用を推進します。

部会シンポジウム

■基礎物性部会

SY-51 基礎物性部会シンポジウム

■粒子・流体プロセス部会

SY-52 熱物質流体工学の最前線2018

SY-53 気泡・液滴・微粒子分散工学2018

SY-54 粉体プロセスの進展2018

SY-55 粉粒体の分散・流動化におけるサイエンスと応用技術

SY-56 革新的なミキシング技術を目指してー現象解明から応用までー

■分離プロセス部会

SY-57 分離プロセス部会シンポジウム (1) 口頭発表部門

SY-58 分離プロセス部会シンポジウム (2) ポスター発表部門

SY-59 (3) 実用分離技術ポスターセッション

- SY-60 (4)粒子・流体系分離プロセスの最先端
SY-61 (5)抽出・イオン交換・吸着の最新動向
SY-62 (6)膜工学研究・分離膜開発の最新動向
SY-63 (7)膜産業技術セッション2018
- 反応工学会
SY-64 資源・エネルギー・環境分野における反応工学の新展開
SY-65 ポスターセッション(フラッシュ発表あり)
SY-66 マイクロ化学プロセス技術の最先端(学生賞あり)
- システム・情報・シミュレーション部会
SY-67 情報統合とモデリングアプローチ
SY-68 プロセスシステム工学の最近の進歩
SY-69 第17回プロセスデザイン学生コンテスト
- バイオ部会
SY-70 生物化学工学の新潮流(フラッシュ発表ありポスター)
SY-71 食品科学における化学工学(食品工学)の役割
SY-72 生物医学におけるトップダウンとボトムアップアプローチの共同
SY-73 メディカル分野における材料工学と化学工学
SY-74 ゲノム編集の最前線ーメディカル関連分野で化学工学はどう関わるか?ー
SY-75 次世代バイオ分離プロセスー連続生産長所と短所ー
- 超臨界流体部会
SY-76 超臨界流体部会シンポジウム
- エネルギー部会
SY-77 エネルギー部会シンポジウム
- 安全部会
SY-78 プロセス安全管理の課題とアプローチ
- 材料・界面部会
SY-79 (1)材料・界面討論会ー材料創製と界面現象の新展開ー(口頭発表部門)
SY-80 (2)材料・界面討論会ー材料創製と界面現象の新展開ー(ポスター発表部門)
SY-81 (3)結晶化および晶析操作の最新チャレンジ
SY-82 (4)気液固分散系利用技術の新展開ー微粒子, エマルション, バブル, 液滴, ハイブリッドマテリアル, バイオマテリアル等を題材としてー
SY-83 (5)ソフトマター工学研究の新展開
- 環境部会
SY-84 環境部会シンポジウム
- 化学装置材料部会
SY-85 化学装置材料部会シンポジウム

参加登録方法

事前参加登録は終了しております。
事前参加登録されていない方は、当日参加登録をお願いいたします。

◇当日参加登録における年会費納入、会員資格の確認

受付にて年会費納入の確認をさせていただきます。年会費が納められていない場合、その場で未納分をお支払いいただき会員資格相当の大会参加費をお支払いいただくか、会員外参加費をお支払いいただくことになります。

法人会員の方も同様に、受付にて法人会員資格の確認をさせていただきます。

会費未納の方が年会費を納めてから入金が確認されるまで、約2週間かかります。当日までに入金が確認されないおそれがある場合は、年会費納付時の受領証を受付にて提示願います。

◇参加登録後のキャンセル(返金)について

一度ご入金されますと、理由の如何を問わず返金はできません。予めご了解ください。

◇講演要旨集について

講演要旨集はUSBメモリとして販売いたします(大会参加者に対する価格:3,240円/個)。大会参加費には含まれておりませんので、ご注意ください。

ご購入は事前参加登録時にお申込みいただき現地で引換券と引き換えていただくか、あるいは現地に販売いたします。事前参加登録時にお申込みいただいたものの、現地でお引き換えいただけなかった方は、後述する問合せ先まで大会終了後にご連絡ください。別途郵送いたします。

なお、講演要旨集は、講演要旨集USBメモリ

の購入有無にかかわらず本大会に参加登録された方皆さん、大会終了から3か月後にwebからダウンロード(無料;ディスクイメージファイル)いただけます。

大会に参加されず講演要旨集のみのご購入を希望される場合は、本会会員は11,880円(税込・送料込)、本会非会員は22,680円(税込・送料込)で販売しております。お申込みは随時大会webより承りますが、現物の発送は大会終了後になります。

◇その他詳細について

大会webサイトをご確認ください。

参加費

大会参加費にはプログラム集(冊子;当日会場にてお渡しします)が含まれていますが、講演要旨集(USBメモリ)は含まれていません。ご注意ください。

大会参加費(当日参加登録)

会員資格	大会		懇親会	
	当日	備考	当日	備考
化学工学会個人会員の方				
正会員	12,000円	不課税	7,000円	課税税込
シニア会員	8,000円		5,000円	
永年会員	7,000円		5,000円	
教育会員	7,000円		7,000円	
学生会員	7,000円		5,000円	
海外正会員	12,000円		7,000円	
海外連携会員	12,000円		7,000円	
海外学生会員	7,000円		5,000円	
化学工学会法人会員に属する方・部会に属する方等				
法人会員（＊1）に属する社員	15,000円	不課税	7,000円	課税税込
懇話会会員	15,000円		7,000円	
部会個人賛助会員	15,000円		7,000円	
部会法人賛助会員に属する社員	15,000円		7,000円	
トライアル会員	12,000円	課税税込	7,000円	
（＊1）維持会員，特別会員，特別地区会員				
他学会の個人会員の方等				
共催学会の個人会員	15,000円	課税税込	7,000円	課税税込
＊2に記す海外学会の個人会員（学生を除く）	12,000円		7,000円	
＊2に記す海外学会の個人会員（学生）	7,000円		5,000円	
（＊2）AIChE：米国化学工学会，CIESC：中国化工学会，DECHEMA：ドイツ化学工学バイオ学会，KICHe：韓国化学工学会，TwICHe：台湾化學工程學會（略称アルファベット順）				
上記以外の方				
会員外	30,000円	課税税込	7,000円	課税税込

講演要旨集(USBメモリ)

会員資格	事前参加登録時同時購入 大会当日購入	大会終了後別途購入
本会会員 (個人/法人/部会個人・法人 賛助/トライアル会員)	3,240円/個(税込)	11,880円(税込・送料込)
本会非会員		22,680円(税込・送料込)

問合せ先

◇事前参加登録およびお支払方法に関するお問合せ

京王観光(株)東京中央支店
〒160-0022
東京都新宿区新宿2-3-10 新宿御苑ビル2階
(担当者: 国分智史, 八塚洋明, 池田 栞)

TEL: 03-5312-6540 FAX: 03-5379-0740

E-mail: s-kokubun@keio-kanko.co.jp

営業時間 9:00~18:00(土・日・祝日は休業)

◇その他に関するお問合せ

化学工学会 第50回秋季大会 実行委員会

E-mail: inquiry-50f@www3.scej.org

人材育成センター

「プラント計装制御-1」講座 (改定第10回)

主催 化学工学会人材育成センター継続教育委員会

日時 2018年11月14日(水)～16日(金)
場所 化学工学会会議室(東京メトロ丸ノ内線茗荷谷駅【東京駅より11分】下車徒歩1分)
横河電機(株)デモルーム／トレーニングセンター(JR三鷹駅(東京駅から中央線特別快速30分、快速37分)下車徒歩7分)
〒180-8750 武蔵野市中町2-9-32
http://www.yokogawa.co.jp/cp/corporate/operation/map/cp-info-map-ja.htm

対象 以下の何れかに該当される方
・プロセス技術者(2～5年程度の経験者)
・計装制御技術者(2～3年程度の経験者)
・「プロセス設計」講座各編 修了者／受講予定者
・「プラント計装制御-2」講座 修了者／受講予定者

講習目標 若手プロセスエンジニアおよび計装制御エンジニアが、プロセスプラントのプロセス改造、新設時に知っておくべき、プロセスプラントで求められるプラント計装・制御の基礎を学んでいただきます。また、今後プロセスプラントの中堅エンジニアとして活躍するために必要なプラント計装・制御の基礎技術を再整理していただきます。

受講のメリット
(1)プラント制御・計装の基本を理解できます。
(2)計装設計の基本、制御方式選定の基礎を習得できます。
(3)最新のプラント情報システムについて学べます。
(4)横河電機殿のご協力により、DCSを使った制御操作実習ができます。
(5)修了レポートにより、理解度を更に深められます。

講座内容

第1日：11月14日(水)於：化学工学会会議室
諸連絡(9:55～10:00)

1. プラント計装制御概論(10:00～11:25; 駒村氏)
2. DCSの機能と設計(11:35～13:00; 駒村氏)
3. プロセス計測操作端(14:00～17:00; 赤城氏)
計装システムの構成、流量、液面計測器、温度・圧力計測器、分析計、調節弁

第2日：11月15日(木)於：横河電機デモルーム／トレーニングセンター

4. DCSの操作の概要とDCSによる制御動作と現場機器の動作の関連性(9:00～10:20; 松本氏)
5. トレーニングセンターでのCENTUMを使った制御操作実習(10:40～16:00; 田島氏)
(1)バッチ制御
(2)連続制御
(3)比率制御
(4)定量仕込制御
(5)プログラム制御
(6)PID制御

※今回より、5. (1)～(5)についてはチャレンジ問題を、また、(6)では任意のパラメータが入力された状態からスタートし、チューニングを行う実習も追加する予定です。

- 第3日：11月16日(金)於：化学工学会会議室
6. 安全計装(9:30～10:55; 岩崎氏)
 7. 標準的なプロセス制御ループ事例(11:05～12:30&13:30～14:25; 小瀧氏)

8. プラント情報システム概説とプロセス産業におけるデジタル化(14:35～16:30; 大坂氏)

講師 経験豊富なエンジニア
駒村康弘氏(日揮(株)エンジニアリング本部)
赤城範方氏(日揮(株)エンジニアリング本部)
松本 太氏(横河ソリューションサービス(株)海外・プラント本部技術部)
田島保之氏(横河ソリューションサービス(株)トレーニングセンター)
岩崎 陽氏(日揮(株)エンジニアリング本部)
小瀧喜明氏(日揮(株)プロセス技術本部)
大坂 宏氏(大坂システム計画(株))

受講証明書 出席基準を満たす受講者には、最終日に受講証明書を発行致します。

修了証 本講座では修了レポートを実施します。合格ラインに達した方には修了証を授与致します。(詳細は4号会告6ページ参照)

継続教育ポイント 受講証明書を授与した方には30ptを授与致します。また、修了証を授与された方には更に15ptを加算致します。(詳細は4号会告7ページ参照)

募集定員 16名(定員になり次第締切)6名に達しない場合は、開催中止となることがございます。

受講料(税別) ※消費税は開催日に適用される税率(8%)です。

個人正会員(技士基礎割*)：本体40,000円+税
個人正会員： 本体60,000円+税
維持会員／特別会員の社員：

本体75,000円+税
地区会員の社員： 本体90,000円+税
会員外： 本体105,000円+税

*技士基礎割は、以下の条件を満たす方が対象となります。

1. 化学工学技士(基礎)資格に関する手続きを完了していること。
2. 正会員であること。(事前に自らの会員情報を確認、更新して下さい)
3. 卒業または修了後5年以内の社会人であること。

申込方法 化学工学会ホームページ右上の“各種申込”の“講習会申込”よりお申し込み下さい。

問い合わせ先

公益社団法人化学工学会 人材育成センター
「継続教育」事務局
〒112-0006 東京都文京区小日向4-6-19
E-mail: jinzai-seminar“アットマーク”scej.org
TEL: 03-3943-3527 FAX: 03-3943-3530

「プロセス設計」講座 プロセス基本制御とPFD作成 編 (改定第2回)

主催 化学工学会人材育成センター継続教育委員会

日時 2019年1月24日(木)～25日(金)
場所 化学工学会会議室(東京メトロ丸ノ内線茗荷谷駅【東京駅より11分】下車徒歩1分)

対象 以下の何れかに該当される方
・「P&IDの作り方」講座 受講予定者
・化学・石油精製プラントなどに関連のある初級エンジニア(3～5年程度の経験者)
・流体の流れや機器情報と合わせてPFDとして具現化する手法を学びたい方
・「プロセス設計」講座 各編 修了者／受講予定者
・「プラント計装制御-1」講座 修了者／受講予定者

者
講習目標 本講座では、中味流体を取り扱うという視点からプロセス制御を構築していき、更に流体の流れや機器情報と合わせてPFDとして具現化していく手法を学んでいただきます。

受講のメリット

- (1)化工物性、蒸留計算編(5月23～25日、10月4～5日)、塔・槽、熱交換器の設計編(6月14～15日、10月24～25日)、ハイドロリックの設計編(6月25～26日、11月19～20日)を受講した後で本編を受講することで、プロセス設計の真髄を習得できます。
- (2)「P&IDの作り方」講座(6月27～29日、11月28～30日)を受講する前の事前学習として有効です。
- (3)修了レポートにより、理解度を更に深められます。

講座内容

※今回より開催日程を延長し、実習時間も増やしております。

第1日：1月24日(木)13:00～17:00

諸連絡(13:00～13:05)

12. 蒸留塔周りの制御(13:05～15:25)

蒸留塔周りの制御の基本概念、圧力維持制御を考える、物質収支のための制御、熱収支のための制御、プロダクト品質のための制御、典型的な制御の例

13. 各種設備の制御の基本(蒸留塔以外)(15:35～17:00)

コンプレッサー、ポンプ、熱交換器、

第2日：1月25日(金)9:30～16:30

13. 各種設備の制御の基本(蒸留塔以外) 続き(9:30～10:25)

並列ループへの流量配分

14. PFD作成実習(10:35～12:30&13:30～14:25)

PFDの目的、PFDに記載する内容、PFDの記号の書式、PFDの書式、実習

15. 計装・制御についての補足事項(14:35～16:30)

P&IDに表示されるべき項目、設備・機器の性能把握、装置のマクロ指標、異常検知のためのアラーム、安全対策

講師 経験豊富なエンジニア

永野健一郎氏(日揮(株)プロセステクノロジー本部プロセス技術部、上席化学工学技士、技術士)

受講証明書 出席基準を満たす受講者には、最終日に受講証明書を発行致します。

修了証 本講座では修了レポートを実施します。合格ラインに達した方には修了証を授与致します。(詳細は4号会告6ページ参照)

継続教育ポイント 受講証明書を授与した方には20ptを授与致します。また、修了証を授与された方には更に10ptを加算致します。(詳細は4号会告7ページ参照)

募集定員 24名(定員になり次第締切)6名に達しない場合は、開催中止となることがございます。

受講料(税別) ※消費税は開催日に適用される税率(8%)です。

個人正会員(技士基礎割*)：本体15,000円+税
個人正会員： 本体30,000円+税
維持会員／特別会員の社員：

本体37,500円+税
地区会員の社員： 本体45,000円+税
会員外： 本体52,500円+税

*技士基礎割は、以下の条件を満たす方が対象

となります。

1. 化学工学技士(基礎)資格に関する手続きを完了していること。
2. 正会員であること。(事前に自らの会員情報を確認、更新して下さい)
3. 卒業または修了後5年以内の社会人であること。

申込方法 化学工学会ホームページ右上の“各種申込”の“講習会申込”よりお申し込み下さい。

問い合わせ先

公益社団法人化学工学会 人材育成センター
「継続教育」事務局
〒112-0006 東京都文京区小日向4-6-19
E-mail: jinzai-seminar“アットマーク”scej.org
TEL: 03-3943-3527 FAX: 03-3943-3530

「反応器の設計」講座(第31回)

主催 化学工学会人材育成センター継続教育委員会

日時 2019年1月28日(月)～30日(水)

場所 化学工学会会議室(東京メトロ丸ノ内線茗荷谷駅【東京駅より11分】下車徒歩1分)

対象 以下の何れかに該当される方

- ・化学反応を扱う研究者・技術者
- ・パイロットプラントの設計を行う技術者
- ・プロセス設計技術者(2～5年程度の経験者)

講習目標 気相反応器、液相反応器の設計、および反応器のスケールアップを行うための基礎知識を習得することを目標とします。特に、反応器周りの熱・物質収支について基本的な考え方を講義し、実験室データから実装置のプロセス設計ができるように、基礎を学んでいただきます。

また、オプション(3日目)では、流動層反応器の設計の基礎を学んでいただきます。

受講のメリット

- (1) 既知の熱力学データを基に、気体反応の熱・物質収支を計算できるようになります
- (2) 実験室データからのスケールアップの考え方を習得でき、液相反応器の実装置の設計に役立つ知識を得られます。
- (3) 修了レポートにより、理解度を更に深められます。
- (4) 最新の流動層反応器の知識を得られます。
- (5) 演習で使用したexcelファイルはお持ち帰りできます。

講座内容

第1日: 1月28日(月) 兵藤氏

諸連絡(9:55～10:00)

1. 反応器概論(10:00～12:30)
2. 気体反応器-反応器廻りの熱収支・物質収支計算-(13:15～17:45)

第2日: 1月29日(火) 寺井氏

3. 液相反応器の設計(9:30～16:30)

第3日(オプション): 1月30日(水) 渡辺氏

4. 流動層反応器の設計(9:30～12:30)

※初日、2日目に使う演習用PCは当会でご準備致します。(但し14名限定)

講師 経験豊富なエンジニア陣

兵藤伸二氏(千代田化工建設(株)石油・化学・新エネルギー設計ユニット)

寺井 聡氏(東洋エンジニアリング(株)エンジニアリング統括本部)

渡辺康広氏(千代田化工建設(株)石油・化学・新エネルギー設計ユニット)

受講証明書 出席基準を満たす受講者には、最終日に受講証明書を発行致します。

修了証 本講座では修了レポートを実施します。合格ラインに達した方には修了証を授与致します。(詳細は4号会告6ページ参照)

継続教育ポイント 2日コースの方は受講証明書で20pt付与、更に修了証で10pt加算します。2.5日コースの方は受講証明書で30pt付与、更に修了証で15p加算します。(詳細は4号会告7ページ参照)

募集定員 14名(定員になり次第締切)6名に達しない場合は、開催中止となることがございます。

受講料(税別) ※消費税は開催日に適用される税率(8%)です。

(2日間)個人正会員(技士基礎割*):

本体25,000円+税

(2日間)個人正会員: 本体45,000円+税

(2日間)維持会員/特別会員の社員:

本体55,000円+税

(2日間)地区会員の社員: 本体65,000円+税

(2日間)会員外: 本体75,000円+税

【2.5日間】個人正会員(技士基礎割*):

本体30,000円+税

【2.5日間】個人正会員: 本体55,000円+税

【2.5日間】維持会員/特別会員の社員:

本体67,500円+税

【2.5日間】地区会員の社員: 本体80,000円+税

【2.5日間】会員外: 本体92,500円+税

***技士基礎割**は、以下の条件を満たす方が対象となります。

1. 化学工学技士(基礎)資格に関する手続きを完了していること。
2. 正会員であること。(事前に自らの会員情報を確認、更新して下さい)
3. 卒業または修了後5年以内の社会人であること。

申込方法 化学工学会ホームページ右上の“各種申込”の“講習会申込”よりお申し込み下さい。

問い合わせ先

公益社団法人化学工学会 人材育成センター
「継続教育」事務局
〒112-0006 東京都文京区小日向4-6-19
E-mail: jinzai-seminar“アットマーク”scej.org
TEL: 03-3943-3527 FAX: 03-3943-3530

「モデリング技術の基礎と実践」講座(改定第10回)

主催 化学工学会人材育成センター継続教育委員会

日時 2019年2月7日(木)～8日(金)

場所 化学工学会会議室(東京メトロ丸ノ内線茗荷谷駅【東京駅より11分】下車徒歩1分)

対象 以下の何れかに該当される方

- ・反応や各種単位操作に関連した現象のモデリング技術を学んで実践に生かしたい方
- ・企業経験3年程度以上の技術系の方

講習目標 プロセス設計、プラント運転にはプロセスシミュレータが広範囲に利用されています。シミュレータをより効果的に活用するには、基礎工学原理の理解が不可欠です。応用数学とモデリングの基礎を、手計算、Excel、方程式解法ソフトを用いながら学び、実験データからモデルをどう作るのかについて、微分方程式・代数方程式の立て方と解き方を中心にした演習を行い、化学プロセスで取り扱う現象のモデリングについて実践的な基礎を学ぶ機会を提供します。

受講のメリット

- (1) プロセスシミュレーションモデリング技術に関する知識とアプローチの理解が深まり、実践に生かすことができます。
- (2) プロセスデータ・実験データを見た時に、関連したモデルを作成し、それを用いて考察する習慣をつけるための第一歩となります。

講座内容

第1日: 2月7日(木)9:55～17:30

1. 立式と解法の基本(EQUATRAIN導入教育含む)

第2日: 2月8日(金)9:30～17:00

2. 反応操作
3. 気液平衡
4. (参考)プラントデータの解析
5. まとめ

※関数電卓は各自ご持参下さい。

※演習用PCは当会でご準備致します。

〈用いるソフトウェア〉方程式解法ソフト(EQUATRAIN-G for Windows)を開発・販売元である(株)オメガシミュレーション社のご好意により利用できます。

《ソフトウェアに関する受講者の知識》

1)Excel: ソルバー機能を使った経験

※ソルバー機能を使った経験が少ない方は、「化学工学」2004年7月号pp.382-386を自習されることをご推奨します。

2)方程式解法ソフト: 不要(冒頭2時間強で、化学工学例題を用いて操作方法を説明します)

講師 熊谷善夫氏((株)PreFEED, 博士(工学))及び、横山克己氏((株)PreFEED, 博士(工学))

受講証明書 出席基準を満たす受講者には、最終日に受講証明書を発行致します。

継続教育ポイント 受講証明書を授与した方には20ptを授与致します。(詳細は4号会告7ページ参照)

募集定員 10名(定員になり次第締切)6名に達しない場合は、開催中止となることがございます。

受講料(税別) ※消費税は開催日に適用される税率(8%)です。

個人正会員: 本体45,000円+税

維持会員/特別会員の社員:

本体55,000円+税

地区会員の社員: 本体65,000円+税

会員外: 本体75,000円+税

申込方法 化学工学会ホームページ右上の“各種申込”の“講習会申込”よりお申し込み下さい。

問い合わせ先

公益社団法人化学工学会 人材育成センター
「継続教育」事務局
〒112-0006 東京都文京区小日向4-6-19
E-mail: jinzai-seminar“アットマーク”scej.org
TEL: 03-3943-3527 FAX: 03-3943-3530

産学官連携センター

第115回技術懇談会

第115回SCE・Net技術懇談会を下記により開催いたします。

今回の講演1では、元三菱化学の宮澤正純氏からその豊富な経験に基づいて、化学プラントの事故に対して、データの収集から対策を構築する取り組みを具体的な事例により紹介いただきます。講演2では、東京大学の田之倉優氏により、老化の症状である加齢性難聴の動物実験による解析を通じて、ライフスタイルが老化に与える影響とその分子メカニズムについて紹介いただきます。

日時 2018年9月27日(木)15:00～18:00

場所 化学工学会会議室
東京都文京区小日向4-6-9(共立会館5F)
TEL: 03-3943-3527
(東京メトロ丸の内線茗荷谷駅より徒歩2分)

15:00～15:40

講演1 「化学プラントにおけるデータの活用と課題」

SCE・Net装置材料研究会会員
(元三菱化学(株))宮澤正純氏

15:40～17:00

講演2 「ライフスタイルによる老化制御メカニズムの理解～Productive agingを目指して～」
東京大学大学院農学生命科学研究科 食の安全研究センター及び応用生命化学専攻 養生訓を

科学する医食農連携研究室 特任教授

田之倉優氏

17:00～18:00

懇親会 講演会終了後、講師の方も参加して頂き、情報交換、懇親の機会を設けます。

定員 35名

会費 1,500円(当日会場受付でお支払い下さい)但しSCE・Netの法人会員は無料です。

参加申込 お名前、勤務先、所属部署、連絡先(所在地、Tel、Fax、E-mail)、懇談会出席の有無を記載して、E-mailで2018年9月20日までに、お申し込み下さい。

申込先 SCE・Net事務局

E-mail: scenet@scej.org

2018年度 開発型企業の会 第3回技術交流会開催案内

主催 化学工学会 産学官連携センター 開発型企業の会

日時 2018年10月3日(水)14:30～19:00

受付14:00～、講演会14:30～17:00、懇親会17:00～19:00

会場 東京工業大学 すすかけ台キャンパス J2棟20階 中会議室
(神奈川県横浜市緑区長津田町4259、東急田園都市線すすかけ台駅下車徒歩5分)

プログラム

今年度も、開発型企業の事業戦略と技術展開に焦点を当てて、特集として技術講演会を開催していきます。今回はこれからのリチウム電池に焦点を当て、新世代の高性能電池として期待される全固体電池についての技術展開や取り組みの紹介も予定され、活発な討議が期待されます。

14:30～15:30 企業からの話題提供

ホソカワミクロン(株)「コンテインメント技術について」

大川原化工機(株)「電池製造に関する噴霧乾燥装置の使用事例の紹介」

15:30～16:30「リチウム電池のブレイクスルーに向けた全固体電池の現状と将来性」

東京工業大学 菅野了次 教授

16:30～17:00 研究設備 見学会

17:00～19:00 懇親会会場: 東京工業大学すすかけ台キャンパス大学会館食堂2階

参加費 5,000円(懇親会費用含む: 領収書は当日用意致します。)

定員 40名

申込締切 9月26日(水)

参加申込 お名前、勤務先/所属部署、連絡先(所在地、Tel/Fax、E-mail) 懇親会出席の有無をE-mailでお送りください。なお、定員を超えた場合はお断りする場合があります。

申込先 公益社団法人 化学工学会 開発型企業の会 事務局

E-mail kaihatsugata@scej.org

戦略推進センター

第2回企業幹部による熟議

主催 公益社団法人化学工学会 戦略推進センター 産業界交流委員会

産業界交流委員会では、企業役員を講師とする講演会を、当学会個人正会員を対象に開催致します。参加希望者はご連絡願います。

日時 2018年10月1日(月)13:50～17:00

会場 住友パークライト(株)天王洲 本社会議室
東京都品川区東品川二丁目5番8号 天王洲パークサイドビル

最寄駅: 地下鉄りんかい線「天王洲アイル駅」B出口徒歩1分

プログラム

13:50～14:00 開催趣旨説明(京都大学 前教授)

14:00～15:30 講演(1)

「サステナブル社会に貢献するケミカル・エンジニアリング」

住友パークライト(株)取締役専務執行役員

稲垣昌幸氏

15:30～17:00 講演(2)

「原料多様化、低炭素化時代における弊社の研究開発」

旭化成(株) 上席執行役員 白井博史氏

対象 化学工学会個人正会員。非会員の方が参加する場合は事前に正会員に入会して下さい。

参加費 無料

申込 参加をご希望の方は、①お名前(ふりがな)②所属団体③所属部署④役職⑤連絡先(住所、TEL、E-mail)をご記入の上、下記連絡先にお申込みください。

連絡先 化学工学会事務局 会田 弘

E-mail: sangyoukai@scej.org

部 会 C T

第17回反好会 (反応工学部会若手会)講演会

主催 化学工学会反応工学部会

化学工学会第50回秋季大会(鹿児島大学)の前日に反好会講演会を開催致します。企業若手社員と学生との交流の場として、「企業若手社員による会社紹介・業務内容紹介」も行います。研究講演、会社紹介・業務内容紹介ともに多くの皆様からご好評いただいています。ぜひお気軽にお越しください。多くの方のご参加をお待ちしております。

日時 2018年9月17日(月)14:00～17:40

場所 鹿児島大学郡元キャンパス内学生会会場(予定)
〒890-8580 鹿児島市郡元1-21-24

プログラム

14:00～14:05 開会挨拶

14:05～14:50 「プロセス強化を目指したファインバブル技術－生成・評価と応用」

鹿児島大学 大学院理工学研究科 五島 崇氏

14:50～15:35 「液滴に関するマイクロ・ナノ流体技術とその工学応用」

東京工業大学 科学技術創成研究院 西迫貴志氏

15:35～15:55 休憩

15:55～16:40 「二次元オーバーレイ構造に基づく新たな触媒設計」

熊本大学 大学院先端科学研究部 芳田嘉志氏

16:40～17:40 会社紹介・業務内容紹介(複数社を予定、詳細は反好会HPをご参照ください。)

17:40 閉会

18:30 懇親会(吾愛人(わかな)鹿児島中央駅西口店)

注意事項

★本講演会は無料でご参加いただけます。

★懇親会にもぜひご参加ください。なお、懇親会は有料です(一般5,000円、学生3,000円)。

★反好会HPからも情報をご覧いただけます。

申込締切 9月10日(月)会場手配の都合上、お早めにお申し込みください。

お申込・お問合せ先

「講演会」および「懇親会」に参加をご希望の方は、「反好会HP」よりお申し込みください。

反好会HP: <http://www2.scej.org/cre/wakate/index.html>

反好会代表幹事 百瀬 健(東京大学)

E-mail: momo@dpe.mm.t.u-tokyo.ac.jp

反応工学部会 反応分離分科会 「反応分離シンポジウム2018」

主催 化学工学会反応工学部会「反応分離分科会」

協賛 物質・材料研究機構(予定)、化学工学会分離プロセス部会「膜工学分科会」、日本膜学会(予定)、分離技術会(予定)

日時 2018年11月16日(金)13:30～19:00(13:00受付開始)

会場 物質・材料研究機構(NIMS)千現地区 研究本館第一会議室(玄関ホール入って左側)
〒305-0047 茨城県つくば市千現1-2-1

交通 つくば駅下車徒歩15分

概要 反応と分離それぞれの要素技術が高度化しプロセスの効率化が進んだ現在では、反応と分離の二つを有機的に結合させ、さらなる高効率(省エネルギー)化およびコンパクト化を目指した反応分離プロセスの開発が必要となります。今年度のシンポジウムは、ガス分離の分野を中心に、一線で活躍される研究者をお招きしました。反応・分離の様々なプロセス・現象を活発に議論できる場になればと考えておりますので、ぜひ多くの方にご参加いただけることを願っております。

プログラム

(1)講演会(13:30～16:15)

13:30～13:35 主催者挨拶

大阪大学 西山憲和氏

13:35～13:50 「物質・材料研究機構(NIMS)の紹介」

NIMS 西村 睦氏

13:50～14:25 「V合金膜を用いた水素分離デバイス」

NIMS 西村 睦氏

14:25～14:50 「高分子材料の素材研究と分離プロセス」

NIMS 一ノ瀬泉氏

14:50～15:05 コーヒーブレイク

15:05～15:40 「マテリアルズデザインテクノロジーに基づくゼオライト結晶構造中Al原子位置の予測と制御」

産業技術総合研究所

チャイキッティスイン・ワッチャロップ氏

15:40～16:15 「反応分離に向けたシリカ系分離膜の開発」

芝浦工業大学 野村幹弘氏

(2)見学会(16:15～17:15)

(3)技術交流会(17:15～19:00)

定員 50名

参加費 化学工学会の会員1,000円(資料代のみ)、協賛団体の会員1,000円(資料代のみ)、反応工学部会の部会法人会員・法人賛助会員(反応分離分科会3名、その他の分科会1名)無料、その他10,000円、技術交流会参加者は上記金額にプラス3,000円(学生1,000円)

申込方法 E-mailにて、氏名、所属(所属研究機関名および会員の有無)、技術交流会の参加希望を明記の上、下記までお申し込み下さい。

申込締切 11月8日(木)

問合せ・申込先 大阪大学 廣田雄一郎

TEL: 06-6850-6257

E-mail: yhirotta@cheng.es.osaka-u.ac.jp

熱工学セミナー

「亜熱帯地域産業における熱工学」

主催 化学工学会熱工学部会

共催 琉球大学地域連携推進機構、沖縄化学装置懇話会

日時 2018年11月16日(金)～18日(日)

場所 沖縄県宮古島、琉大宮古島キャンパス(宮古島市中央公民館 視聴覚室)他

11月16日(金):見学会

13:30 宮古島空港 到着出入口付近 集合

13:35 バス 出発

14:00 酒造見学

15:45 亜熱帯地域の自然環境と構造物の視察

17:30 宮古島市平良にて解散

11月17日(土):公開セミナー 及び ポスター発表会

司会:水口 尚(琉球大学)

10:00 開会挨拶(熱工学部会長、大阪大学 岡野泰則)

10:05 講演会(30分×4件)順未定

「熱流体工学を活かした海藻作り」

琉球大学 瀬名波出氏

「蒸気拡散方式の多重効用海水蒸発濃縮器の開発」

琉球大学 野底武浩氏

「亜熱帯地域に適した多機能溶接(溶けた金属を磁石でコントロール)」

琉球大学 松田昇一氏

「島嶼型トリジェネレーションシステムの実証試験に向けた基礎研究」

沖縄高専 山城 光氏

12:05 閉会挨拶(沖縄化学装置懇話会会長、琉球大学 野底武浩)

昼食

14:00 学生によるポスター発表

18:00 懇親会(会場周辺・会費6000円予定)

11月18日(日):琉球大学千原キャンパス見学(希望者)

11:00 琉球大学工学部

参加費について

会員:8,000円

ポスター発表者(学生):2,000円

会員外:16,000円

※参加費に含まれるもの:見学会費(バス代)・ポスター発表

参加費等は、当日、見学会参加受付にて現金でお支払いください。なお、公開セミナーのみの聴講の方の参加費は無料です。

申込締切 10月16日(火)

申込方法 ご氏名、ご勤務先(所属部署)、所属学会、連絡先(所在地、Tel、E-mail)、見学会参加の有無、懇親会参加の有無を件名「熱工学セミナー申込」とし、E-mailでお送りください。職場や研究室でとりまとめて申し込みいただけると幸いです。

なお、公開セミナーのみの聴講の方は、申し込み不要です。直接、会場へお越しください。

見学会について

バスの手配の都合上、定員を33名とし、先着順とします。

ポスター発表について

発表希望の学生さんは、上記の申込に加えて、タイトル・発表者名・所属をご連絡ください。

宿泊先について

会場(宮古島市中央公民館)の最寄りの宿泊先は下記の通りです。早めのご予約をお願い致します。

・ホテルサザンコースト宮古島: <http://h-scm.jp/>

・ホテルアトールエメラルド宮古島: <http://www.atollemerald.jp/>

・ホテル・デ・ラクア: <http://www.l-aqua.jp/>

・ホテルオアシティ共和: <http://oacitykyowa.com/>

その他、宮古島市平良地区ホテル

申込・問合せ先

琉球大学工学部 水口 尚

TEL: 098-895-8619 FAX: 098-895-8636

E-mail: mhisa522@tec.u-ryukyu.ac.jp



東 北 支 部

第61回プロセス設計技術講演会・ 見学会 第47回秋田化学工学懇話会 ケミカルエンジニアリング交流会

主催 化学工学会東北支部
共催 秋田化学工学懇話会、宮城化学工学懇話会

日時 2018年11月2日(金)
会場 日本新金属(株)秋田工場
〒010-0065 秋田市茨島3丁目1番18号
(TEL: 018-865-7204)

スケジュール

12:45 秋田ビューホテル ロビー集合
13:00 貸切バスにて移動
13:20 日本新金属(株) 到着
13:30～15:30 会社説明ならびに見学
15:40～17:00 講演
「金属資源循環と環境負荷元素の制御における
非鉄製錬業の役割」
東北大学多元物質科学研究所
金属資源プロセス研究センター 教授
柴田悦郎氏

17:10 貸切バスにて移動
17:30 懇談会
秋田ビューホテル
〒010-0001 秋田県秋田市中通2-6-1 (TEL: 018-832-1111)

参加費 主催・共催団体会員:無料, 非会員:1,000円, 学生:無料
(ただし、移動費として一人当たり1000円程度お支払いいただく可能性があります。)
懇談会参加費 4,000円
参加申込締切 2018年10月23日(火)
参加申込先 〒010-8502 秋田市手形学園町1番1号
秋田大学大学院理工学研究科物質科学専攻内
秋田化学工学懇話会 事務局(担当:加藤, 佐々木)
TEL: 018-889-2755 FAX: 018-889-2752
E-mail: konwakai@gipc.akita-u.ac.jp



関 東 支 部

第23回基礎化学工学講習会

主催 公益社団法人 化学工学会関東支部
協賛 公益社団法人 日本化学会、一般社団法人 日本エネルギー学会、一般社団法人 廃棄物資源循環学会

企業で既に活躍されている技術者の方々、あるいは化学系企業に入社されたばかりの方々の化学工学の基礎知識の向上・考え方の構築を図るため、産業界の強い要請に応え「第23回基礎化学工学講習会」を昨年に引き続き以下のように開催いたします。本講習会では「基礎的な考え方」と「演習」に重点を置き、大学・工専・高専で学ばれた知識を発展、整理していただく機会に

なるよう、さらに改善を進めております。研究開発・設計・製造現場など、化学工学の考え方を必要とする若手技術者、知識のリフレッシュをしたいと考えている方々を対象とします。

大学と企業から選ばれた講師が、自ら精選したとめた教科書を基に、実務的な視点を加味し、講義と演習を組み合わせ、理論と実践とを丁寧に解説いたします。「化学工学の基礎」、「流体工学」、「熱工学」、「反応工学」、「平衡分離」、「分離操作」をテーマに、合計6日間の講習を致します。精勤者には、本講演会にて使用した教科書の演習問題の「解答集(非売品)」を贈呈いたします。特に人事をご担当の部署におられる方々におかれましては、今後とも毎年継続的に実施してまいりますので、是非人材育成の一環としてお考え頂ければ幸いに存じます。

日時 2018年10月22～23日(月～火)、29～30日(月～火)、11月5～6日(月～火)9:30～17:00

場所 東京理科大学 森戸記念館 第1会議室
〒162-0825 東京都新宿区神楽坂4-2-2
(TEL: 03-5225-1033)
(地図: http://www.tus.ac.jp/tlo/new/pdf/event_20121030_map.pdf)
最寄駅: JR線「飯田橋」駅西口 徒歩6分、
東京メトロ有楽町線・南北線・東西線「飯田橋」駅B3出口 徒歩5分

時間割 全日共通

9:30～9:40 関東支部長開会挨拶(第1日目)・概要説明

1限 9:40～11:10 講義基礎①ーじっくり基礎事項を学ぶ(大学側講師)

2限 11:20～12:50 講義基礎②ー同上(大学側講師)

昼食(各自ご自由にお取り下さい)

3限 13:50～15:20 演習ー基礎に基づく実践演習(企業側講師)

4a限 15:30～16:30 講義応用ー応用・発展的な事項を解説(大学側講師)

4b限 16:30～17:00 演習解説ー演習の解説、実践事例(企業側講師)

17:00～17:15 最終日は閉会式

プログラム

第1日目 10/22(月)「化学工学の基礎」

1限 単位と次元、収支論の基礎

2限 移動速度論の基礎

4a限 相似則と無次元数

(東京農工大学)桜井 誠氏

3, 4b限 演習及び解説

(千代田化工建設(株))東村 達氏

第2日目 10/23(火)「流体工学の基礎」

1限 運動量移動、レイノルズ数

2限 円管内流動、エネルギー収支、配管内の圧力損失、計測

4a限 境界層の考え方、乱流

(東京工業大学)吉川史郎氏

3, 4b限 演習及び解説

(広栄化学工業(株))佐藤秀樹氏

第3日目 10/29(月)「熱工学の基礎」

1限 熱移動過程、抵抗の分離、総括移動抵抗

2限 対流伝熱(主に円管内)

4a限 放射伝熱、熱交換操作

(東京工業大学)森 伸介氏

3, 4b限 演習及び解説

(三井化学(株))菅 道春氏

第4日目 10/30(火)「反応工学の基礎」

1限 化学反応と反応速度

2限 均一反応装置の特徴、解析と設計

4a限 気-固反応系、触媒反応

(東京大学)大友順一郎氏

3, 4b限 演習及び解説

(三菱ケミカル(株))鈴木敬紀氏

第5日目 11/5(月)「分離工学Ⅱー分離操作ー」

1限 移動過程、抵抗分離、総括抵抗

2限 吸収、膜分離

4a限 種々の膜分離プロセス、反応吸収

(東京工業大学)伊東 章氏

3, 4b限 演習及び解説

((財)金属系材料研究開発センター)

松尾充高氏

第6日目 11/6(火)「分離工学Ⅰー平衡分離ー」

1限 平衡の概念

2限 蒸留と収支

4a限 抽出

(日本大学)栗原清文氏

3, 4b限 演習及び解説

(月島環境エンジニアリング(株))小島照博氏

募集人員 60名

参加費 化学工学会・協賛学会正会員は6日間参加 40,000円、単独参加 12,000円/日となります。化学工学会・協賛学会法人会員の社員の方は6日参加 60,000円、単独参加 18,000円/日です。学生会員は6日間参加 20,000円、単独参加 5,000円/日となります。会員外は6日間参加 80,000円、単独参加 24,000円/日となります。6日間参加の場合、一部の日程を代理出席されても結構です。1社3名以上での申し込み時、1名につき10,000円引きになります。それぞれの参加費には教科書1冊・資料代・消費税を含みます。

申込方法

・Web申込み

関東支部HP(<http://www.scej-kt.org>)の次回行事開催のご案内の「第23回基礎化学工学講習会」をクリック後「参加申込みフォーム」をクリックするとフォームのウィンドウが開きますので、必要事項を記入の上、ご送信ください。

・Fax, E-mailによる申込み

下記関東支部事務局宛、チラシの申込書又は申込書相当の必要事項ご記入の上お送りください。

申込先 〒112-0006 東京都文京区小日向4-6-19 共立会館内 公益社団法人 化学工学会 関東支部

TEL: 03-3943-3527 FAX: 03-3943-3530

E-mail: info@scej-kt.org

HP: <http://www.scej-kt.org>

支払方法 受付後、参加証と共に送りする振替用紙にて事前にお振り込み下さい。当日会場での現金支払いも可能ですが、当日になってのキャンセルの場合も参加費のご請求をさせていただきます。

修了証 精勤者全員に授与します。

優秀賞 演習の成績優秀上位者を表彰します。

持参品 筆記用具、関数電卓をご持参下さい。



東 海 支 部

第5回 初歩からの 化学工学数学演習講座 ～データ整理手法と ディープラーニングの基礎～

主催 (公社)化学工学会東海支部
共催 (予定) 静岡化学工学懇話会、東海化学工業会、(公社)日本分析化学会中部支部、(公社)日本化学会東海支部、(一社)資源・素材学会、(公社)高分子学会東海支部、(一社)日本原子力学会中部支部、(一社)廃棄物資源循環学会、日本溶剤リサイクル工業会、日本機械学会東海支部、(一社)日本エネルギー学会、(一社)日本鉄鋼協会東海支部、(公社)化学工学会産学官連携センターグローバルテクノロジー委員会
協賛 (予定) (公社)日本水環境学会、電気学会東海支部、粉体工学会、(公財)中部科学技術センター、電気化学会東海支部、有機合成化学協会東海支部

化学工学会東海支部では、反応・分離・輸送・エネルギー・環境・材料などに関する講座を開設し、製造現場、研究・開発に関わる人材の育成を目指しています。本講座では「データ整理手法とディープラーニングの基礎」について実例を紹介しながらわかりやすく解説し、実験データやプロセスデータの整理・解析・推測のテクニックを習得することを目的とします。

データ整理・解析・予測には、統計手法を用いた数量化(統計解析、回帰分析)や数学モデルによるデータの2次加工、多変量解析などの数学的知識が必要不可欠です。また、最近ではディープラーニング(深層学習)によるデータマイニングという新しい手法も活用されるようになってきました。企業におかれましては、研究者のみならず生産管理や運転管理、運用計画に関わる方々のスキルアップの機会としてご利用いただければ幸いです。

日時 2018年11月16日(金)13:30～17:00
会場 イオンコンパス名古屋駅前会議室(会議室C+D)
交通 JR「名古屋駅」新幹線口(太閤通口)より徒歩3分
<http://www.aeoncompass-kaigishitsu.com/nagoya/access/>

プログラム

13:30～14:20 1. 数量化の基礎
14:20～14:30 休憩
14:30～15:30 2. 多変量解析法入門
15:30～15:40 休憩
15:40～16:40 3. ディープラーニングによる未来予測の基礎
16:40～17:00 質疑応答
注)筆記用具と関数機能付き電卓をご準備ください。
注)休憩時間は、講師への質問時間としてご利用いただけます。

講師 岐阜大学大学院工学研究科 環境エネルギーシステム専攻 教授 神原信志
定員 30名(定員になり次第締切)
・企業向けの講座ですが、学生が受講されても構いません。ただし、定員を超えた際には企業の方を優先させていただきます。

参加費(資料代・消費税を含む)

正会員	8,000円
法人会員社員	10,000円
会員外	20,000円
学生	2,500円

*共催・協賛団体会員も本会会員価格に準じます。

申込方法 化学工学会東海支部ホームページにアクセスし、「参加申込フォーム」からお申込み下さい。

<http://scej-tokai.org/>
後日、参加証をお送りいたします。参加証は、当日ご持参下さい。

申込期限 2018年11月9日(金)

送金方法 現金書留または銀行振込
みずほ銀行 名古屋支店 普通預金 No.1055521

「公益社団法人化学工学会東海支部」

ゆうちょ銀行 名古屋00880-7-5640

「公益社団法人化学工学会東海支部」

問合せ先 〒460-0011 名古屋市中区大須1-35-18 一光大須ビル7F (公財) 中部科学技術センター内 (公社)化学工学会東海支部

TEL : 052-231-3070 FAX : 052-204-1469

<http://scej-tokai.org/>

第52回化学工学の進歩講習会 「物質循環とマテリアル開発 (マテリアル開発におけるシステムの思考の有用性)」

主催 化学工学会東海支部

共催 (予定) 色材協会中部支部、資源・素材学会、触媒学会、石油学会、東海化学工業会、日本LCA学会、日本化学会東海支部、日本機械学会東海支部、日本混相流学会、日本セラミックス協会東海支部、日本鉄鋼協会東海支部、日本粉体工業技術協会、日本油化学会東海支部、日本レオロジー学会、廃棄物資源循環学会、表面技術協会中部支部、粉体工学会、分離技術会、レアメタル資源再生技術研究会

協賛 (予定) 中部科学技術センター、化学工学会超臨界流体部会、化学工学会分離プロセス部会、化学工学会材料・界面部会、化学工学会環境部会、化学工学会化学装置材料部会、化学工学会粒子・流体プロセス部会、化学工学会熱工学部会、化学工学会反応工学部会、化学工学会産学官連携センターグローバルテクノロジー委員会、静岡化学工学懇話会、共晶会、健友会

日時 2018年11月29日(木)～30日(金)

場所 名古屋大学 VBL3F・ベンチャーホール(名古屋市中千種区不老町)

交通 地下鉄名城線「名古屋大学」下車、3番出口から徒歩3分

プログラム

第1日目 11月29日(木)(9:00～15:55)

1. システム思考とマテリアル(9:00～9:55)
(名古屋大)北 英紀 氏
2. 炭素循環型社会形成におけるCO₂利用技術のポテンシャルとメタネーションによるCO₂利用プロセス開発動向(10:00～10:55)
(名古屋大)則永行庸 氏
3. ジオポリマーとその新展開(11:00～11:55)
(名古屋工業大)橋本 忍 氏

4. 白金代替触媒および白金使用量低減化技術(13:00～13:55)
(信州大)福長 博 氏
5. 分離・回収のプロセス(14:00～14:55)
(名古屋大)片桐誠之 氏
6. 超臨界・亜臨界流体を用いた有機マテリアルの抽出分離(15:00～15:55)
(名古屋大)神田英輝 氏
- 第2日目 11月30日(金)(9:30～16:35)
7. 軽量材料(9:30～10:25)
(名古屋大)小橋 眞 氏
8. トータルで考える炭素繊維強化樹脂複合材料の性能(10:30～11:25)
(名古屋大)入澤寿平 氏
9. 反応場としての超臨界水の特徴と有機系資源変換などへの応用(12:30～13:25)
(名古屋大)高見誠一 氏
10. 都市鉱山(13:30～14:25)
(国研)物質・材料研究機構)原田幸明 氏
11. LIME3 - グローバルLCAを実現するための影響評価手法 - (14:40～15:35)
(東京都市大)伊坪徳宏 氏
12. エントロピー生成と熱力学的視座でのものづくり(15:40～16:35)
(明治大)山口智彦 氏

定員 100名

参加費(テキスト代、消費税を含む)

化学工学会正会員：30,000円、化学工学会法人会員社員／共催・協賛団体(個人・法人)会員：35,000円、化学工学会学生会員／共催・協賛団体学生会員：5,000円、会員外：70,000円

申込方法 下記ホームページ「進歩講習会」にアクセスし、「参加申込フォーム」にてお申込み下さい。

<http://scej-tokai.org/>

後日、参加証をお送りいたします。参加証は当日ご持参下さい。

申込期限 2018年11月15日(木)

送金方法 現金書留、銀行振込 または 郵便振替(ゆうちょ銀行)

銀行振込：みずほ銀行 名古屋支店 普通預金 No. 1055521 公益社団法人化学工学会東海支部
郵便振替：名古屋00880-7-5640 公益社団法人化学工学会東海支部

問合せ先 〒460-0011 名古屋市中区大須1-35-18 一光大須ビル7F

公益社団法人化学工学会東海支部

TEL : 052-231-3070 FAX : 052-204-1469



関 西 支 部

公開講演会 炭素系先端材料の新展開

主催 近畿化学協会機能性色素部会・同 エレクトロニクス部会
共催 化学工学会関西支部ほか

日時 2018年10月5日(金)13:00～18:30

会場 大阪科学技術センター4階405号室(大阪市西区靱本町1-8-4 TEL: 06-6443-5324)
〈交通〉地下鉄四つ橋線「本町駅」25・28番出口より北へ徒歩約7分、うづぼ公園北詰

講演

1. 分子間相互作用の理解に基づくCNT熱電変換材料の開発
(奈良先端大先端科学技術)野々口斐之
2. スーパーグロース法による単層カーボンナノチューブの量産化、産業普及への取り組み

- (日本ゼオン)上島 貢
3. Carbon Allotropes in Thin-Film Solar Cells (英語
講演) (東大院工)田 日氏
4. グラフェンのCVD成長と応用開発, そして
二次元材料への展開
(九州大グローバルイノベーションセ)吾郷浩樹
懇親会 於: ATRIO CAFÉ (大阪市西区京町堀
1-8-27, 会場より徒歩1分) ※講師の先生を囲
みアフターディスカッションを行います。
参加費 共催団体所属会員20,000円, 近畿機能
性色素部会員・エレクトロニクス部会法人会
員/近化学識会員 無料, 近畿化学協会会員(兩
部会員外)15,000円, 会員外30,000円, 学生2,000
円, 懇親会3,000円 (何れも消費税, テキスト
代含む)
申込締切 定員(60名)になり次第締切
申込・問合せ先 〒550-0004 大阪市西区朝本町
1-8-4 大阪科学技術センター 6階 一般社団法人
近畿化学協会
TEL: 06-6441-5531 FAX: 06-6443-6685
E-mail: seminar@kinka.or.jp
http://www.kinka.or.jp/



中国四国支部

化学工学会 中国四国支部・ 関西支部合同徳島大会

- 主催 化学工学会中国四国支部, 化学工学会関
西支部
共催 徳島化学工学懇話会, 中国地区化学工学
懇話会, 岡山地区化学工学懇話会, 山口
地区化学工学懇話会
日時 2018年12月8日(土)
場所 徳島大学常三島キャンパス(徳島市南常三
島町1-1)
プログラム(予定)
11:00~16:00 一般セッション
16:00 男女共同参画に関する講演会
16:30 キャリアアップ講演会(企業におけるケ
ミカルエンジニア)
17:30 優秀発表賞授賞式及び交流会

講演申込及び要旨提出締切 10月26日(金)
予約参加申込締切 11月30日(金)

発表方法

口頭発表のみ(講演時間10分, 討論5分)

発表資格

化学工学会および下記関連学会に所属する大
学院生が主な対象。
関連学会: 日本生物工学会, 日本農芸化学会,
日本食品工学会, 日本機械学会, 日本海水学
会, 日本吸着学会(これら以外のケースについ
てはメールでお問い合わせください。)

発表申込・参加申込方法等を含む大会に関す
る詳細情報は下記HPに掲載いたします。

<http://cre.chem.tokushima-u.ac.jp/shibu2018>

情報サービスセンター

求人

☆東京農工大学 大学院工学府 応用化学専攻 システム化学工学専修 テニユアトラック准教授 募集☆

募集人員: 准教授1名(テニユアトラック教員)
専門分野: 環境またはバイオを指向する化学工学関連分野
応募資格: 博士の学位を有し, 博士学位取得10年以内の方。化学工学の主要分野
で教育研究を行い, 上記専門分野のニーズに対応した形で開拓する意
欲を持ち, 当該分野教員と協力し, 学生指導・教育に積極的に取り組
むことができる方。
応募締切: 2018年8月31日(金)【必着】
問合せ先: 東京農工大学 大学院工学府 応用化学部門 教授 山下善之
E-mail: yama_pse@cc.tuat.ac.jp

☆成蹊大学理工学部物質生命理工学科 募集☆

募集人員: 教授1名
専門分野: エネルギー材料(二次電池や電気デバイス材料等)にかかわる分野で,
電気化学, 材料化学, 界面化学, 分析化学等を専門とする実験研究
応募資格: (1)博士の学位を有し, 上記専門分野において研究業績がある方
(2)学部および大学院における教育と研究指導に熱意を持って取り組め
る方
応募締切: 2018年10月15日(月)必着
問合せ先: 成蹊大学理工学部物質生命理工学科 主任教授 里川重夫
TEL: 0422-37-3749(直通) FAX: 0422-37-3871(学部共通室着信)
E-mail: satokawa(at)st.seikei.ac.jp(注: (at)を@に変えてください)

☆福岡工業大学工学部生命環境化学学科 准教授または助教募集☆

募集人員: 1名
専門分野: 化学工学
応募資格: 詳細はこちら http://www.fit.ac.jp/daigaku/koubo/kyoin_kobo/kyoin_seimei_20180621 参照
応募締切: 2018年10月26日(金)必着
問合せ先: 福岡工業大学工学部生命環境化学学科 呉 行正
TEL: 092-606-3759 FAX: 092-606-0728
E-mail: wu@fit.ac.jp

「化学工学」誌会告欄執筆基準の周知について

化学工学誌における会告原稿について下記の基準を設けております。情報伝達の効率化とスリム化のための措置であり、特段のご配慮を戴きたくお願いいたします。(なお、原稿は掲載月の前々月25日迄に、日本印刷(株)(秋山)、E-mail <edit@npc-tyo.com>までWORDの添付ファイル形式でお届け下さい。)

尚、会誌掲載原稿は学会のホームページにも掲載します。

記

特に記載のある場合以外はすべての案内記事を1回掲載とし、会告欄掲載以降は実施月までカレンダーに掲載し、案内収載号参照とする。一つの案内記事内に重複情報は入れないように配慮する。

(本部関係)

○集会(年会、秋季大会)、参加案内記事

1. 講演募集およびシンポジウムテーマ募集は1回掲載
2. 参加募集は3回掲載(内1回は予告)
3. プログラムは1回掲載

○会費納入案内は3回掲載

○総会案内は2回掲載

(支部・各部門関係)

○支部大会参加案内記事

1. 講演募集は1回掲載
2. 参加募集は2回掲載
3. プログラムは1回掲載

○その他集会(講習会、講演会、学生行事など)

1. 1回掲載とする。
2. ア) 内容プログラムがある場合は前文は書かない。(企画意図、開催意義などはプログラム内容で判断できる。)イ) プログラムがなく内容説明が不可欠の場合は数行程度で簡潔に記載する。(会告記事としてあたりまえのことは記載しない。例：多数の参加をお待ちします。一会告を出すのは参加を呼びかけるのが目的であるからこのような記載は不要—)
3. 内容プログラムは実質部分のみとする。(羅列的に記述せず、内容としての要点のみとする。一例：開会・終了挨拶などは削除)
4. 参加要領等(参加申し込み方法、参加費支払方法など)は必要最小限の情報とする。

求人情報

○必要最小限の情報(機関名・人員・専門分野・応募資格・応募締切日・問合せ先・TEL・E-mail等)にとどめる。

共催・協賛行事等案内

○原則として、カレンダーのみとする。

図書等(学会＝本部・支部刊行)案内

○内容を数行で紹介することを標準とする。(目次の羅列的介绍は行わない)

追記：上記基準を逸脱している原稿については、情報サービスセンター長の判断で内容変更を伴わない配慮をした上で短縮します。

以上